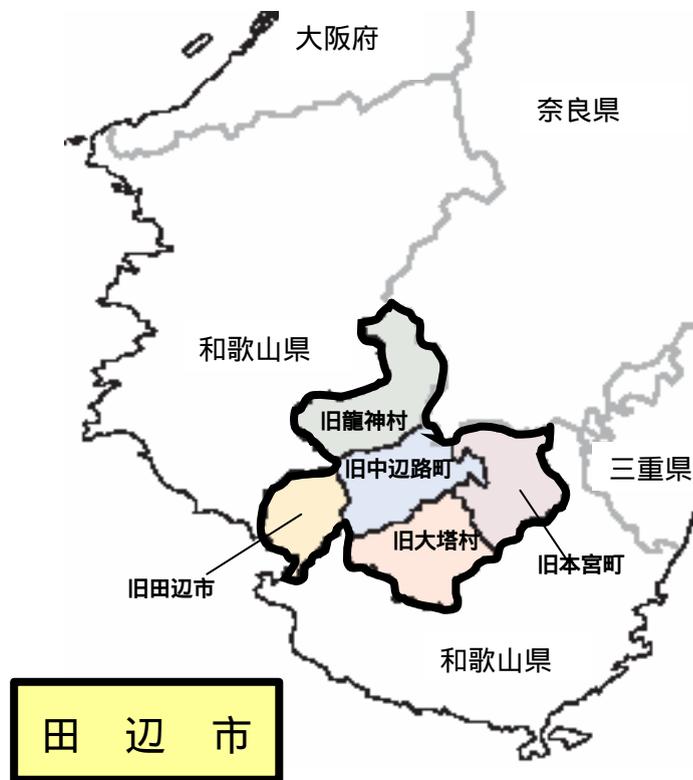


田辺市のひきこもり支援 (窓口開設 7年目の報告)



(平成17年5月1日5市町村合併)

平成19年4月～平成20年3月

和歌山県田辺市

目 次

ー 1.田辺市におけるひきこもり支援	
田辺市ひきこもり相談窓口担当 目良宣子	・・・ 5
2.田辺市ひきこもり相談窓口ピラ	・・・ 7
.田辺市ひきこもり検討小委員感想	・・・ 11
.平成 19 年度 支援の実際	
(1).相談実績 平成 19 年度	・・・ 21
(2).家族会 (ほっこり会)	・・・ 25
(3).青年自助会実績	・・・ 26
自助会イベント.ほんまもん体験	・・・ 28
(4).社会体験活動	・・・ 32
(5).啓発活動 視察 実習 問い合わせ	・・・ 33
(6).行政局講座 (中辺路地区)	・・・ 34
(7)- .講演会	
「人間関係につまずく若者たち」- 講師 高塚 雄介 氏	・・・ 40
.人の心と向き合う仕事に携わる人々のための特別セミナー	
対人援助に携わる人々に求められるもの」	
- 講師 高塚 雄介 氏 ・ 二神 能基 氏	・・・ 44
(8).田辺市ひきこもり検討委員会 議題 / 活動	・・・ 48
(9).田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想	・・・ 49
.参考資料	
1.社会的ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ピラ	・・・ 55
2.居場所 ハートツリー 紹介ピラ	・・・ 56
3.田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱 / 委員名簿	・・・ 57



- 1.田辺市におけるひきこもり支援

田辺市ひきこもり相談窓口担当 目良宣子 5

- 2.田辺市ひきこもり相談窓口 紹介チラシ 7



今年度、平成 19年度 (第 11回)「千代田地域保健推進賞」をいただいた。活動テーマは、田辺市におけるひきこもり支援 地域ネットワークを活用しながら、青少年の社会的自立支援をはかる である。その報告の一部をまとめてみる。

田辺市におけるひきこもり支援
地域ネットワークを活用しながら、青少年の社会的支援をはかる一
目良 宣子

田辺市におけるひきこもり支援は、相談窓口開設後 6年間で一定のシステムが築かれたため、今後は、このシステムの基盤になるネットワーク機能の普遍化を目指し、更なる支援の充実を図っていかなければならない。このひきこもり支援は、1機関だけで取り組むには限界があり、主だった関係機関の集まりである検討委員会が機能して、支援を必要とする方が安心して支援を受けられるようなくみへと発展・拡張していく必要がある。

これまで相談窓口の支援は、相談の継続による信頼関係の深まりと、ひきこもり青年を抱える家族の集まりである「家族会」や、青年が集い語り合える「青年自助会」を生み出した。現在「家族会」は自主活動になり、「青年自助会」も自主活動を目指し、青年が主体となりうる自助会「知音」を開設している。また民間では、有志によってひきこもり青年の居場所が生まれ、更に別の NPO 法人が、ひきこもり青年の体験活動の場を提供している。これまで既存の社会福祉法人が、ひきこもり青年を受け入れる場の提供や、職員を支援の場に派遣する等、民間機関が行える最大限のノウハウと技術と人材を提供してきた。このことで官の方にも影響を与え、保健所や教育機関の連携が深まった。またひきこもり支援全般に、検討委員会委員である精神科医の役割や働きは大きかった。

継続的な相談と家族会や青年自助会の取り組みを並行しながら、親子共々少しずつエネルギーを蓄え、心理的な孤立感から開放され、社会との接点をゆっくりではあるが徐々に広げ、社会的行動につながっていくプロセスを積み上げてきた。社会体験活動のひとつとして、県青少年課が民間に委託している青年長期社会体験活動事業 (文部科学省の青少年の意欲向上・自立支援事業)は、今年度で 3年目、また県観光交流課が関わっている社団法人和歌山県観光連盟 (体験型観光活用支援要綱)からの支援金を民間が受けて行っている「ほんまもん体験」への参加は、2年目である。その他和歌山県経営者協会主催の京都にある「私のしごと館」の見学や体験、民間の紀南障害者就業・生活支援センターでの就労訓練、当市健康増進課主催のひきこもり支援団体や当事者・関係者との交流会等、様々なイベントや体験活動・就労支援を繰り広げてきた。

今年度検討委員会では、ほぼ 2年前から実施しているひきこもり青年の社会体験活

動及び就労支援の実態から、事例検討を行い、その評価を元に、青少年の社会的自立を目指す支援について今後の課題をまとめた。

成果

相談窓口開設後過去6年間で3ヶ月以上継続支援をしてきた71件の事例のうち、青年自助会への参加以外の社会的行動(居場所への通所、社会体験活動への参加、就労訓練を受ける、自動車免許取得、ハローワークの面接に出かける、アルバイト、進学、就労等)の変化が見られた事例は29例であった。こうした行動の変化は、必ずしも本人に出会ってからではなく、家族への支援の継続だけで、本人が自宅中心の生活から抜け出して、社会的な行動へと変化していくことがある。このことは、ひきこもり支援における家族支援の有効性を示していると思われる。また本人面接から青年自助会に参加するようになると、仲間の中で刺激を受けることが多くなり、一人が自動車学校に通い始めると、次々に自動車免許を取得し、その後就労訓練や就労につながる、或いはハローワークに行く等、支援者のほうから学校や仕事の話題はしないため、仲間との交流が本人の自発的な行動を生み出しているといえる。

今後の課題

「ほんまもん体験」、青年長期社会体験活動事業等、これら就労訓練を含めた体験活動は社会参加への足がかりになると考えられたが、これまでの障害者や若年無業者を対象とした枠組みの就労までの支援制度の中で、ひきこもり青年が、行動範囲を広げ就労に至った事例がある一方、すぐに離職に至りリバウンド状態の事例があるなど、ひきこもり青年にとっては利用のしづらいものになっている。そのため19年度、どのような体験活動、就労訓練が、ひきこもり青少年の社会的な自立支援へのプログラムとして有効であるのかを、18年度末までに就労訓練を受けたことのある青年10名(継続中2名も含む)の事例を通して、検討委員会で検証した。その結果、就労する本人の希望と支援するタイミングの適切な時期、就労に送り出す側と受け手との連絡やフォロー体制、就労までにつけておきたい対人関係のスキルはどんな形でつけ、それは就労訓練の場で行えるのか等課題があげられ、今後の方向性としては、もう少し緩やかな形態の純然たるひきこもりの就労支援の場を作っていくこと、専門性が問われると思われるが誰が支援するのか等、ひきこもり状態にある青年の特性を深く知り、地域社会での場・人の確保を含めて、自立を支援するための就労のあり方等まだまだ課題が残っている。潜在する人材の発掘とヒューマンネットワークからシステムチックなネットワークへの発展、人から人へと支援の輪が広がり、まちの未来を背負っていく若者全体が生きやすいまちづくりにつないでいかなければならない。

ひきこもり相談窓口の紹介

不登校のまま卒業あるいは中退後自宅中心の生活をしている青年、進学あるいは就職したけれど途中でやめて社会参加をしていない青年・・・ご家族や当事者だけで悩んでいませんか？

田辺市健康増進課には専用電話（26 - 4933）を設置して平日の午後2～4時に相談を受けつけています。年々相談件数は増えていますが、相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していく青年が自助グループで活動中です。

問い合わせ先：田辺市健康増進課
TEL：0739 - 26 - 4901（平日8：30～17：00）
FAX：0739 - 26 - 4933
HP：<http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>
E-Mail：shc@city.tanabe.lg.jp

自助グループ^{CHI-IN}（知音）

月2回の集まり
女性の会（月1回）
30代の会（月1回）

（その他社会資源を紹介します）

家族会

（ほっこり会）
月1回の集まり

- ・ひきこもりの子どもを持つ家族同士の心の交流
- ・家族の対応支援方法
- ・社会的ひきこもりの理解をしてもらうための啓発活動などを行っています

居場所

（NPO法人ハートツリー）
居場所・相談・家庭訪問・イベントなど実施
対象：ひきこもり状態にある青年（15～30歳代までの男女）
入会金：なし
利用料：（1ヶ月）10000円
見学・体験利用は相談の上で

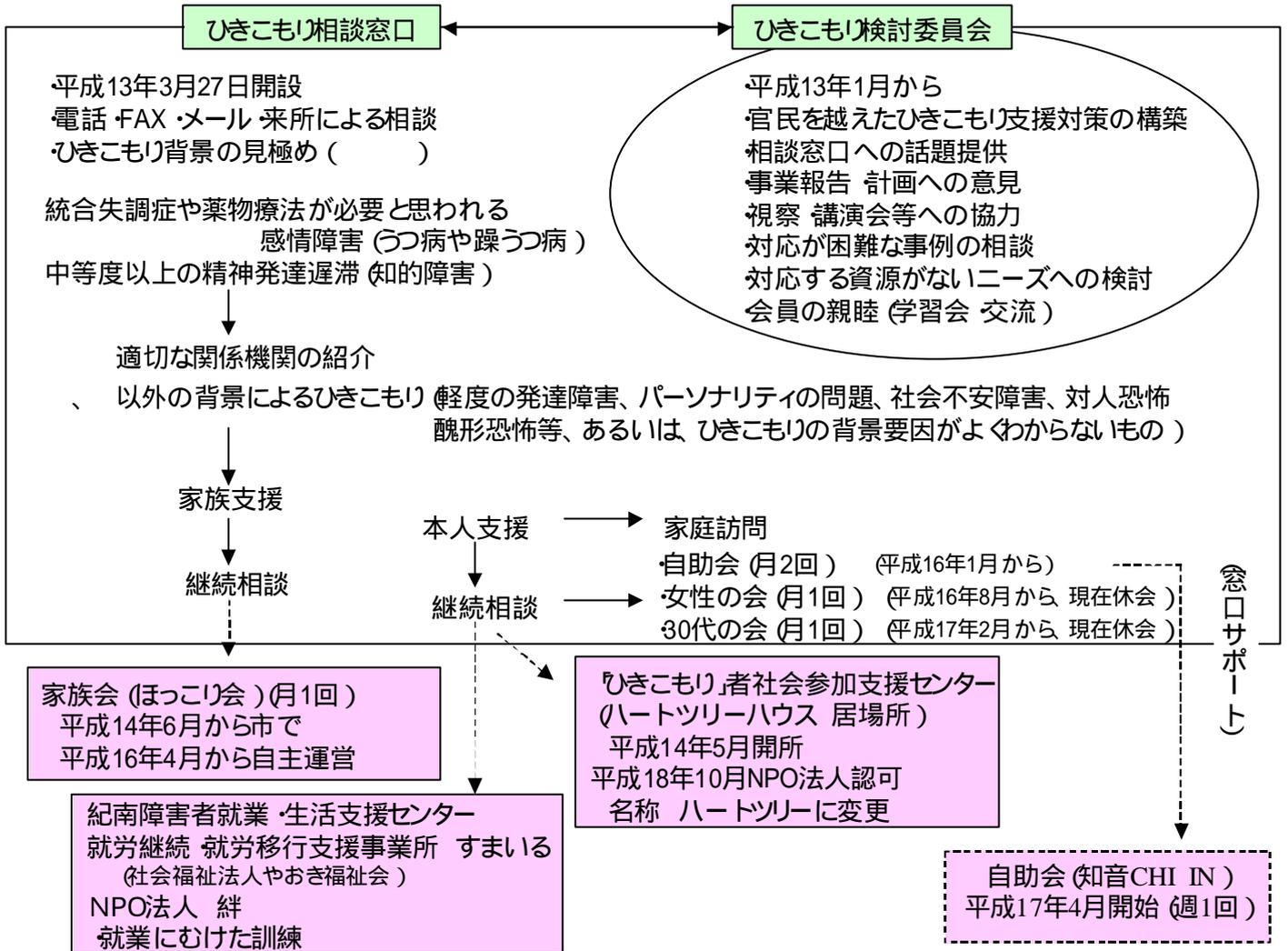
自助会

^{CHI-IN}
（知音）

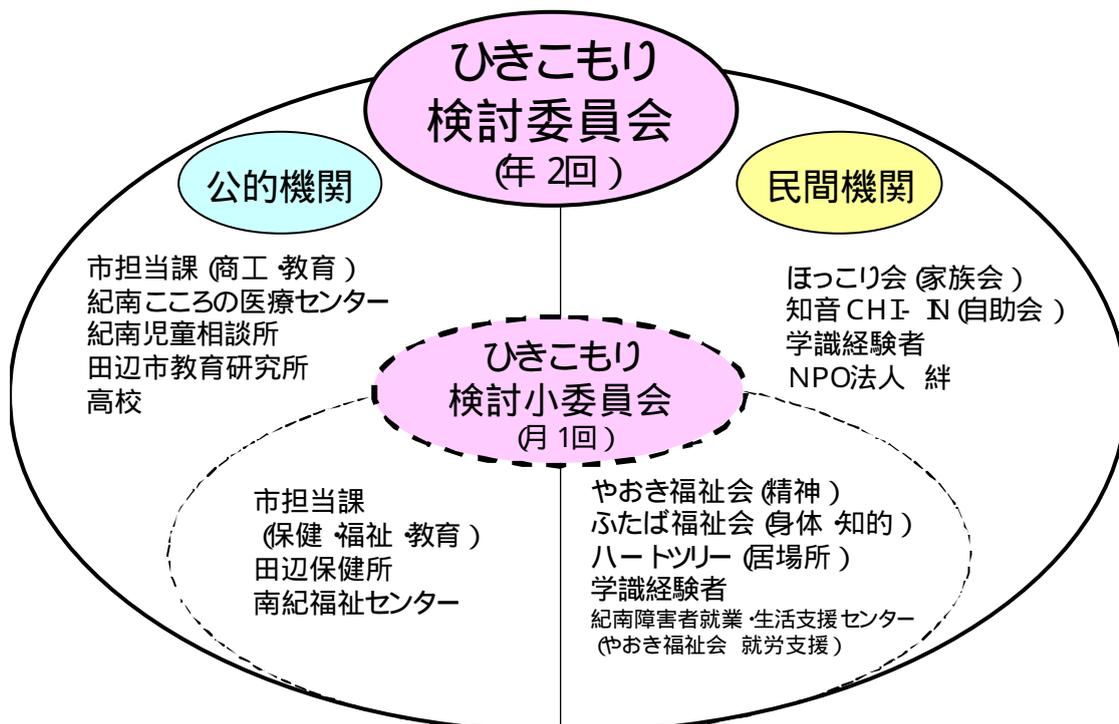
週1回の集まり

自助会で集まったメンバーが自分たちで様々な活動をしています

(図 1) 田辺市相談窓口支援の流れ (実線枠外は民間実施)



(図 2) 田辺市ひきこもり支援ネットワーク





． 田辺市ひきこもり検討小委員感想	．．．．． 11
「まともではないが今考えている事」	．．．．． 布袋 太三
若者支援とセーフティーネットの再構築	
- 7年間田辺市ひきこもり検討委員会に関わって思うこと -	．．．．． 寺沢 啓三
1 年をふりかえって	．．．．． 米川 徳昭
ひきこもり検討委員会に参加して	．．．．． 横矢 弥生
個人的に思うこと	．．．．． 野長瀬 祐樹
田辺市ひきこもり検討小委員会に出席して	．．．．． 栗田 直嗣
ハートツリースタッフとして青年と関わる中で	．．．．． 南 芳樹
ひきこもり検討委員会に参加して	．．．．． 木下 和臣
ひきこもり検討委員になって	．．．．． 山下 寿人



「まともにはないが今考えている事」

田辺市ひきこもり検討委員会委員長 布袋 太三

今年も検討委員会としてはそれなりに多彩な試みをやってきた。なかでも高塚氏と二神氏の講演と対人援助セミナー」などは関係する多くの人からかなりの好評を得たし、我々自身にも実践的で斬新な示唆をさまざまな視角から与えてくれた。

ところで、窓口の目良氏が3月いっぱいまで辞任することになった。役所の仕事だから早晚異動はありうるとは思っていたが、それにしても衝撃的ではあった。おそらくはいろいろな要因が複合しての結果だと思うが、主には氏の体調によるものであったと聞いている。

思えば窓口開設以来の目良氏の行動的で熱意に満ちた献身は内外に実に大きな影響を与えつづけてきた。しかし、あの闊達な目良氏が、いつのころからか、自分でも制御しがたい心身の不調を累積させていっていたとすれば、私たちは頭を垂れて深く深く考え込んでしまう。それほど対人援助を生業とすることは苛酷なのか・・・と。もちろんこのことに加えてだが、私は氏の独特のクライアントとの関係性やその心情の流れを仄聞していると、かなり前から不調の兆しはあったと思っている。ただ私はそうした懸念を持ちながらも、時にスーパービジョンの必要性などに触れる以外は無為に手をこまねいて事態を見遣っていただけであった。私にできることなどはほとんどなかったにちがいないが、なぜか私は喉に挟まった小骨がいつまでもとれないような「悔い」に今でもまわりつかれている。

ともあれ、私は今に至っては目良氏には新たな場で、まずは心身のリフレッシュに専念してもらいたいし、今度は少しゆっくりと勉強を重ね続けていってもらいたいと切に思っている。そして、いつの日にか再び私たちと協働する場に戻ってきてほしいと思っている。

さて、私たちはなんにしても早急に「ポスト目良」の新しい態勢と展望を可能な限り具体化しなければならない。役所はそれなりの態勢を準備するとは思うが、検討委員会としての改めるべき点については早い機会に話し合いを進めていきたいと思っている。あまり整理されていないが、思いつくままに以下にいくつか提示してみたい。

まず、新しい「窓口の相談業務」についてだが、これはあまり口出しすることではないし、すでにそうなっているのかもしれないが、「担当の分担」と「担当者同士の話合い」と「スーパービジョン体制」を制度的に保障していくべきだと思うがどうか。

要するに、一人の担当者がクライアントのすべてを抱え込むことなく、チームとして現状の理解や課題の整理を進め、さらに展望についても調整していくことが必要で、かつ、相談の一定の進展とその「振り返り」をスーパーバイザーとともに確認しあうことが不可欠と思われる。あえて言うと、このことが十全にあれば目良氏の不調は回避できたにちがいないと思っている。

ついで、検討委員会(小)」の有り様についてふれてみたい。

一つは新しいメンバーを加えてみることにしたが、たとえば「高校教育相談担当者会議(?)」「紀南カウンセリング研究会」「不登校問題担当者会議」「スクールカウンセラー」「商工会議所」「経営者協会」「ハローワーク」「かたつむりの会」「青年ネット」などのうちから何人かに呼びかけることはどうか。

もうひとつは、委員会論議の活性化に関わることだが、「窓口の相談の全体像がつかめない」

窓口ではどんな家族や青年が来て、どんな相談をし、どんな双方の理解とか受け止めで次回につながっていったのか。すべては知らなくてもいいが、ある程度知っていないと話にならない。当事者や家族の姿がまったくイメージできない。どんなことに悩み、どんな当面の課題をもっているのか。ネットワークのどこかで関わることをできないかどうか、等に応えることが必要と思っている。たとえば、論議が個々の青年の実情をどう理解すべきかにかかわってくるとも多くのメンバーはお手上げで一部の「分かった」人々の間で延々とあてもないこうでもないという話が続くというのはなんとしても避けたいのである。そこで、当事者や家族の状況や相談の現状と見通しなどについても一定程度小委員会レベルでは明らかにすることが必要と思われるがどうか。

それから、田辺市の小中の不登校生の数はかなり多い。高校でも相当数にのぼると思われる。不登校とひきこもりの関係は密接であるとすれば、そうした点で関係機関と連携するべく「不登校対策委員会」(不登校問題担当者会議)や「紀南六校教育相談担当者会議」や「紀南地域のスクールカウンセラー、その他教育関係者との定期的な情報交換の場を作ってはどうかと思う。

また、就労につながる種々の対策をつくりだすことも考えていきたい。たとえば「職親制度」「ひきこもり青年のためのジョブコーチの養成」「地域の経営者グループとの折衝」「ハローワークとの話し合い」等々について、少し踏み出して論議していきたいと思っている。

その他、委員諸氏から忌憚のない意見を出してもらえれば多くの改めたいことが噴出すると思われるが、あまり無理をせずネットワークとしての検討委員会の存在意義を再確認しつつ、さしあたっては提示したいいくつかを是正点にして今年度の活力につなげていきたいと考えている。

若者支援とセーフティネットの再構築」

年間田辺市ひきこもり検討委員会に関わって思うこと

田辺市ひきこもり検討委員会副委員長 寺沢 啓三

不登校やひきこもりを支援する人たちが、田辺市にひきこもり支援の必要性を訴え続けていた。これを受けて田辺市は、全国の市町村に先駆けて、2001年、ひきこもりの専用相談窓口を設け、田辺市ひきこもり検討委員会を組織した。

私は、当委員会が設立された2001年から現在まで約7年間、委員長、副委員長としてこの委員会に関わり、月1~2回の会議に出席し、いろいろな活動に参加してきた。その私が、今一番強く願うことは、「日本の将来を担う若者一人ひとりに国がもっと手厚い支援を行ってほしい」ということである。

活動を通して見えてきた現代社会の一裏面

家族や当事者から相談窓口へ寄せられる相談の内容から、多くの課題が明らかになってくる。それらの課題に向き合いつつ議論し行動する中で、多くのことを学び、どのような支援策が必要

なのかを検討してきた。ひきこもりに関して、正しい理解や啓発の必要性を感じ、講演会、学習会等も行ってきた。

相談担当の支援者は、相談に来られた数多くの家族を支え、勇気を与え、家族を変え、そして、ひきこもり青少年に繋がり、その青少年たちを支え続けてきた。複雑に絡み合った課題を一つひとつ解きほぐしていくのは、高度で重層的な粘り強い支援の継続が必要であったと思う。その結果、多くの家族が救われ、ひきこもり青少年が励まされてきた。自身の足で立ち、動き始めた人も数多く出てきた。大変喜ばしいことである。

相談窓口の実践や検討委員会の活動を通して見えてきたことがある。それは、『ひきこもりという現象は、一部の青少年の問題ではなく、現代社会の裏面を一部反映したものであり、将来に向けてのみんなの課題である』ということである。ひきこもりの問題は表面では見えにくい、地中奥深くの根っこの部分では社会と深く強く関係しているということであった。

検討委員会が活動したこの7年間はどんな日本だったのか

この間は、いわゆる「新自由主義」政策の下で、各種事業の「規制緩和」や「民営化」が進められ、様々な分野で「格差」を生み出し、促進してきた時代であると言われている。

青少年の分野では、不登校、ひきこもり、フリーター、ニートと呼ばれる人たちが増えている。最近では、ワーキングプアなどという言葉が耳にすることも多くなった。仕事をする意欲があっても、なかなか仕事にありつけないし、ようやく仕事に就くことが出来ても正職員にはなれない。契約職員やパートタイマーもしくは派遣社員として低賃金で働かされている。高齢化社会を支え日本の将来を担うべき若者が社会的弱者となりつつある。若者の貧困化、難民化がすすんでいる。

他方、日本の経済は回復基調にあるという。つい数年前まで、巨額の負債を抱えていた大銀行は、国民の血税から「損失補填」をしてもらって、今や世界有数のメガバンクとして、完全に息を吹き返している。これらの金融資本を土台に、各業種の大企業は、業績を回復し過去最高の利益をあげているところが増えている。これらの利益はどこからもたらされたのか。その一番の源泉は、労働力の「買いたたき」であった。大企業の利益を生み出したものは、現行の労働者派遣法やパート労働法の下で、企業にとって必要な時に必要な分だけを、期間工、契約社員、パートタイマー、派遣社員として、場合によっては請負会社に委託して、安い労働力を提供させることで、人件費を削減してきた結果である。青年層の貧困化と大企業の史上空前の利益は、表裏一体の関係にある。

このような日本社会全体の傾向は、元々仕事が無く賃金が低いと言われる当地方においても波及してきている。

公的機関におけるひきこもり支援の継続 充実を

厚生労働省や和歌山県が取り組まない中、田辺市行政における、相談窓口の実践と検討委員会の7年間の「試行的な」取り組みは、市内の多くのひきこもり青少年や家族を救うと同時に、全国の支援者、関係者に多くの希望と勇気を与えてきた。

ひきこもり支援は官民を問わず、どちらの分野においても必要である。田辺市での相談は無料であり、必要とする市民は誰でも受けることが出来た。このことは大変重要である。公的な支援制

度がほとんど無い現状において、民間では有料にせざるを得ない。有料になるとある一定のお金を持っている世帯しか支援を受けることが出来ない。世間の相場では、相談が1時間当たり数千円とか、宿泊を伴う訓練が1ヶ月10数万円とかだと言われる。これでは多くの住民がその支援サービスを買うことが出来ない。

また、国の主導で、「行財政改革」「民営化」「市町村合併」「公務員削減」「福祉の切捨て」等が押し進められる中で、地方自治体が地域住民の命やくらしを守る立場に立つことは、とても重要になってきている。田辺市は、7年前に初めて聞いた「家の中からの小さな叫び声」を大切に続けてほしい。そして、就労支援などの更なる手立てを行うなど支援体制の充実を図ってほしい。

人口が10万人にも満たない地方都市・田辺市での先進的な取り組みが、約10倍の和歌山県民規模で行われたら・、約1000倍の国民的規模で本格的に実施されたら・、どんなにすばらしいだろう

セーフティーネットの再構築を

長い間ひきこもっていた青少年が、家族や支援者の粘り強い働きかけにより、家から外に出られるようになって、現在の厳しい労働環境の中に入って仕事をしていくことは、とても難しいのが現実である。そのために、ひきこもり青少年への独自の就労支援が必要である。そもそもひきこもりを作らないように、青少年一人ひとりを大切にする教育体制の充実が求められているように思う。しかし、現在の日本では、この間の格差社会の進行によって、公的な福祉制度・年金制度や医療保険制度崩壊の危機が云々されているように、今までの社会の「安全装置」が機能しなくなっている。今や日本は、アメリカ同様、世界有数の経済大国でありながら同時に貧困大国でもあるという。青少年の貧困化を防止するために、教育、雇用、福祉、医療、保健等について国民・地域住民全体のセーフティーネットを早期に再構築していく必要があると思う。

「一年をふりかえって」

田辺市ひきこもり検討委員会副委員長 米川 徳昭

あまり関われない一年で終わりましたが、仕事の関係で児童分野に着任したことで多くの考えさせられるドラマに出会うことができました。

発達の遅れや課題のある自分の子どもに親たちが向き合い、あるときは失望し、あるときは希望を見出し、一喜一憂を繰り返しながら、がんばっている親たちとの出会いは大変感慨深いものでした。親たちのその子育ての時間の中でしっかりとした家族と絆を蓄えていき、まだ見えぬ未来だけれども、確かな展望を見出していき姿に感動すら覚えました。

ひきこんでいる青年の親やその家族も思わぬ自分の子どもの状態に嘆き、苦しみ、何とかしようがんばります。児童分野の親たちとは経験する時間や状況は違っていますが、考えてみれば、親たちが一時的にはとことん向き合って、そして、ある時期には「いつもそばにいるよ、見守っているよ」と暖かな気持ちとともに送り出していくという共通の方程式があるように思います。

ある時間に、たっぴり親子が、家族がむきあうこと。親や家族しかできないことを当たり前に

すること、できることが解決のためのひとつのアイテムであることを再度確認した一年であった。

「ひきこもり検討委員会に参加して」

紀南障害者就業 生活支援センター 横矢 弥生

実際に対象者との接点がない状態での参加となるが、立場的には就労分野で問題とはなりつつあるが、実際にはまだ目には見えていない状態のような気がします。徐々に社会的ひきこもりについても分かってきたような感じだが、支援となればまた違っているように感じる。支援の難しさをヒシヒシと感じています。

「個人的に思うこと」

社会福祉法人ふたば福祉会 野長瀬 祐樹

「甘え」「なまけ」やる気がない等と思われることがまだまだ多く、さまざまな悩みの中でもがき苦しんでいる人たちが地域の中には存在する。

支援には、受け止める「包容力」「分かち合う」「共感」「理解」「一人じゃないという安心感」が必要ではないかと思います。

しかし個人単位での支援にはしんどさもあり限界もあります。そこで地域・社会の中での取り組みが必要になるのではないのでしょうか。

個人では受け止めきれない想いを地域・社会の中で受け止め、多くの人考える。

社会の中に暖かく見守る目が育ち、励ましあいながら進んでいく事のできる環境が整うよう微力ながらご協力させてもらい今後も一緒に歩んで行ければと思います。

「田辺市ひきこもり検討小委員会に出席して」

県立田辺保健所 精神保健福祉相談員 栗田 直嗣

平成17年4月から、8年ぶりに田辺保健所に異動して以来数回の欠席はあったものの毎月1回の小検討委員会に出席させてもらった。それ以前は保健所の「こころの健康相談」をとおして、ひきこもり不登校 思春期のこころの相談を受けたり 教育関係者との事例検討の中での向き合いが中心であった。そのような業務の中でも、当事者や家族の相談や支援、集まりの場を求める声があったり 実際に家族自身が集まりそれぞれの地域では動いていた。しかし 行政が専門の窓口を独立させ、専従の職員を配置し対応している状況ではなかった。勿論、官民を問わず他職種がバックアップシステムを立ちあげその窓口へのサポートをすすめているのは、なかったような気がする。

私は、常々「こころの健康」を考えると全ての人の「ライフステージ」「ライフサイクル」つまり縦軸（年齢や年代）の広がりや横軸（年齢や年代層横社会）の広がり注目し、社会情勢や環境などあらゆる視点から多角的にとらえることを念頭に置いていた。そしてその個人に繋がる家族の環境や心理的因子にも大きな関心を持っていた。しかし、所詮一人の（少数の）視点ではなかなか包括的な支援やサポートには繋がりにくく、孤立することが多々あった。

この検討小委員会は、行政がその責任のもとに市民に対しきっちりと向き合い、対応していることは、勿論内容のある高い評価や、価値を持っている。さらに、地域の中で実践を積んでいる事業所や、教育関係者、医師、有識者がその施策をいつも見守り、助言し共に考え、協働していることは、ある意味「本当の生活保証」「社会福祉」「ソーシャルサポート」の姿であると思う。

自分自身さらに、検討委員会での学びを深め、自己研鑽に励み自らが向き合う当事者や家族へのソーシャルサポートに繋がるよう真摯にこの検討委員会に臨んでいきたい。

「ハートツリースタッフとして青年と関わる中で」

NPO法人ハートツリースタッフ 南 芳樹

民間支援団体ハートツリー職員として、またひきこもり検討委員として、2年目を終えようやく周りのことが見え出してきたかな。というのがこの2年の素直な感想です。

そんな中、ひきこもりの青年たちと直に向き合うことが出来たのは僕自身非常に勉強させていただきました。

特に今年度、ハートツリーではほんまもん体験（和歌山県観光交流課より助成）を企画し、自助会の方にも参加を呼びかけたり、青年長期社会体験活動事業（和歌山県青少年課の事業）で自助会所属のメンバーさんをコーディネートしたりと交流する機会をたくさん持つことができました。

ほんまもん体験では様々な体験（陶芸体験や念珠づくりなど）を通してメンバーさんと何気ない会話を楽しむことが出来ました。また、メンバーさんにとっても今までは「見たことのある人」から話をする事が出来た人へ変わったことが一番の大きな成果であったように思います。

初めは一言二言だった会話が徐々に体験を重ねるごとに増えてくること。何も言わずにバスから降りていた青年が「きょうなら」と一言声をかけてからバスを降りるようになったこと。一行だった感想が二行に増えたこと。

青年の力がついてきていることに嬉しさを感じました。

青年長期社会体験活動では、自分で一般の実習先（農作業体験やボランティア活動、看板屋さんなど）を選択し、継続して実習を行えました。

体験の中で「働く」ことの意味を感じ、自分がどんなことをやってみたいのかということを感じ、働くことに近づけたように思います。

メンバーさんが「生日は暇やから嫌なんです」と話してくれました。ひきこもりがちであって外に出て行くのが不安であった青年がハートツリーの休所日は「家にいて何もすることがないから嫌だ」と思えるようになったのは青年自身が大きく成長した証であると思いました。

まだまだ、苦しさやしんどさを持っている青年はたくさん居ます。

そんな青年が安心して出て行ける「居場所」として、また「居場所」のスタッフとして青年の気持ちに寄り添い一緒に歩いていくことが出来るようなスタッフとして今後も青年たちと関わって行きたいと考えています。

「ひきこもり検討委員会に参加して」

学校教育課 木下 和臣

19年度、初めて「ひきこもり検討委員会」のメンバーとして、委員会に参加しました。それぞれの立場で支援活動をしている方々の取組には、頭が下がる思いでした。講演会等の取組を通して、いろいろなことを学習することができたとおもいます。今後の教育活動に力を入れて行きたいと思えます。

ただ、個々の事例については、直接関わられた方々は当然十分把握されていることとは思いますが、私たち直接関わりのない者にとっては、それが、どんな青年で、どこに住んでいて、どのような状況であるのかわかりづらく、事例検討には参加できませんでした。

互いに検討委員であるので、もう少し状況等を全体のものにして、検討すればいろいろな意見が出るのではないのでしょうか。

「ひきこもり検討委員になって」

生涯学習課 山下寿人

ひきこもり検討委員になって、はや1年がすぎました。私は勤労青少年ホームわかしお及び田辺市青年ネットワーク(昔でいう田辺市青年団)の事務局を担当していることから、この1年は、主に上記団体が開催するイベント等の情報を、健康増進課の目良さんに提供し、連携を図ってきました。

当初を振り返ると、ひきこもりの人達への認識が甘く、知識も不十分なうえ、小委員会に出席してもあまり理解できてなかったように思います。しかし、自分なりに様々なひきこもりに関する資料や小委員会でのお話などのおかげで、少しずつではありますが、ひきこもりとは・・・輪郭がみえてきたように感じます。20年度も微力ではありますが、検討委員として、青年ネットワーク事務局として、どんどん、ひきこもりの人達と関わって行きたいと考えております。

(1). 相談実績 平成19年度

相談窓口開設以降平成20年3月末までに、336 家族 353 件の相談あり。

(内、平成18年度までに 326 家族 343 件)

年度別相談件数

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
実件数	44	79	89	105	86	80	50
延べ件数	138	337	481	1097	1090	968	643

平成 19年4月～平成20年3月までの状況

月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計	
電話	6	17	10	10	6	5	54	
来所	49	51	45	46	36	41	268	
メール	13	21	2	11	26	13	86	
訪問	0	0	0	0	1	0	1	
合計	68	89	57	67	69	59	409	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期合計	総合計
電話	3	7	4	2	2	5	23	77
来所	27	32	25	29	26	28	167	435
メール	2	5	28	3	2	3	43	129
訪問	0	0	0	0	0	1	1	2
合計	32	44	57	34	30	37	234	643

相談件数

	実件数		延べ件数
	初回	継続初回	
電話	8	9	77
来所	2	29	435
メール	0	2	129
訪問	0	0	2
合計	10	40	643
	50		

医師による相談 (4件含む)

相談者 (初回)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
3	0	0	1	3	0	2	1	1
計	1件が重複。内訳は兄弟姉妹と本人 (1)							
11								

相談者 (継続初回)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
23	0	0	18	1	0	0	0	0
計	2件が重複。内訳は母と本人 (2)							
42								

- (1). 相談実績

相談者 (延べ)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
227	13	13	408	7	0	2	1	1
計 29件が重複。以下は内訳								
672 本人、母 (27) 本人、兄弟姉妹 (1) 本人、父 (1)								

年代別男女別件数 (50件中)

	~10代	10代	20代	30代	40代	年齢不明	計	%
男	0	5	15	8	2	0	30	60
女	0	2	13	4	0	0	19	38
性別不明	0	0	0	0	0	1	1	2
計	0	7	28	12	2	1	50	
%	0	14	56	24	4	2		

居住別 (50件中)

市内	38	76%
市外	12	24%
計	50	

相談結果 (50件中)

継続	31	60%
終了	7	14%
紹介	1	2%
その他	11	24%
計	50	

終了 就労 (3) 進学 (1) その他 (3)
 紹介 保健所 (1)
 その他 本人、家族から相談のみ (7)
 親戚からの相談のみ (2)
 関係者からの相談のみ (1)
 相談者不明 (1)

継続について

継続分類 (31件中)

統合失調症や薬物療法が必要と 思われる感情障害	3
中等度以上の精神遅滞	0
、 以外の背景によるひきこもり 軽度発達 (知的)	5
その他	23
計	31

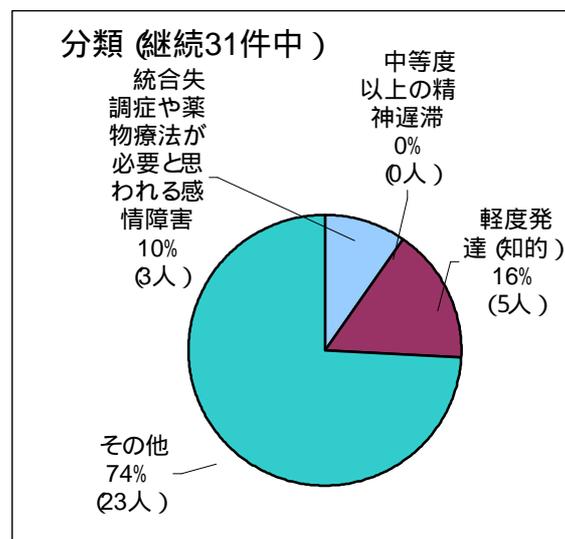
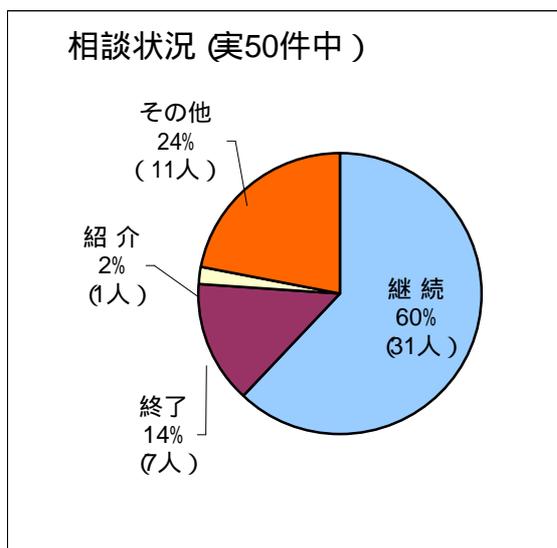
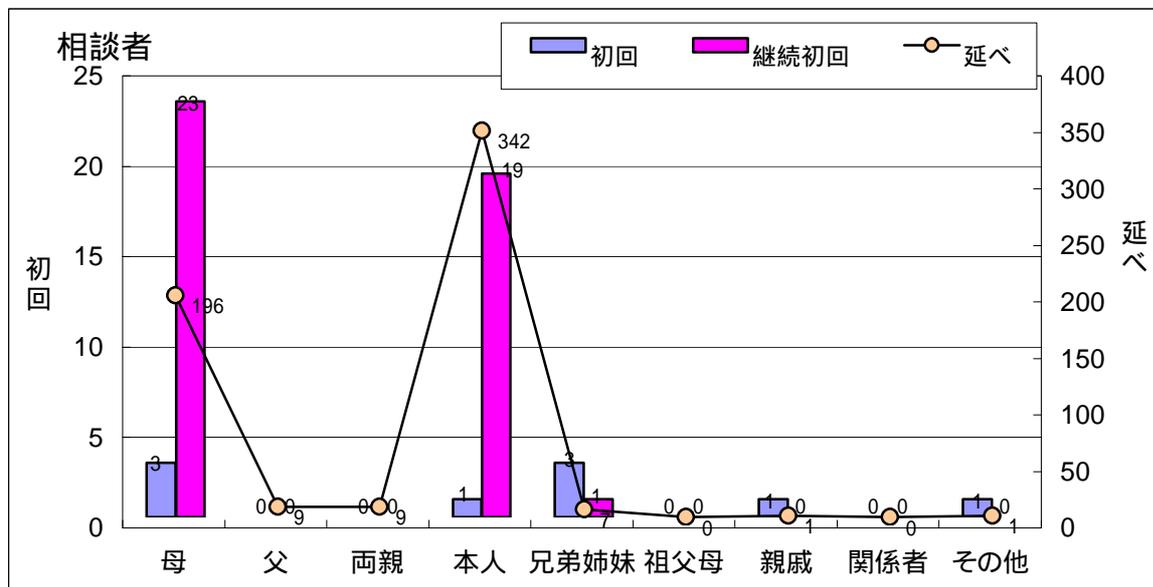
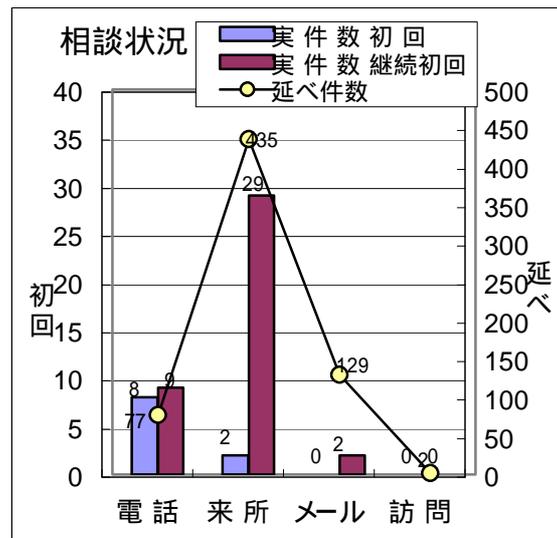
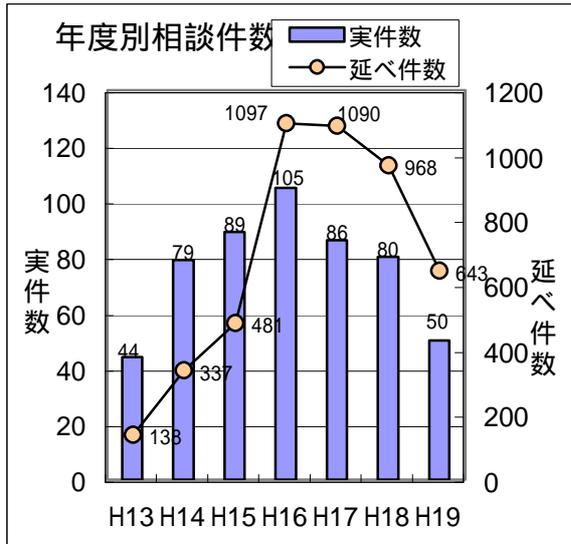
継続状況(重複あり)

自助会	11
家族会	9
医療	12
ハート	2
就労	7
就労訓練	5
学校	2
相談のみ	14

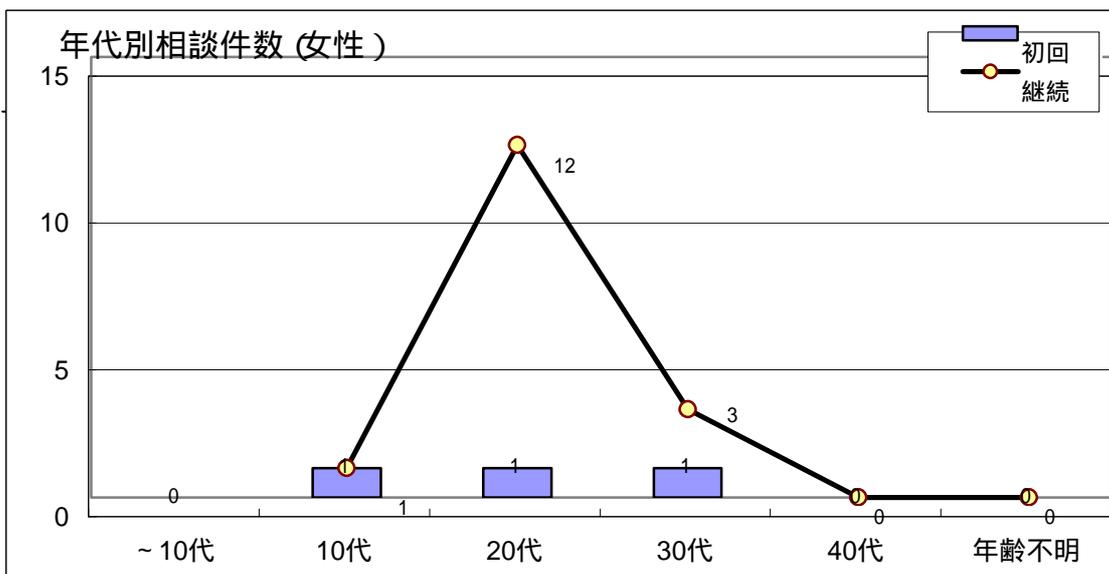
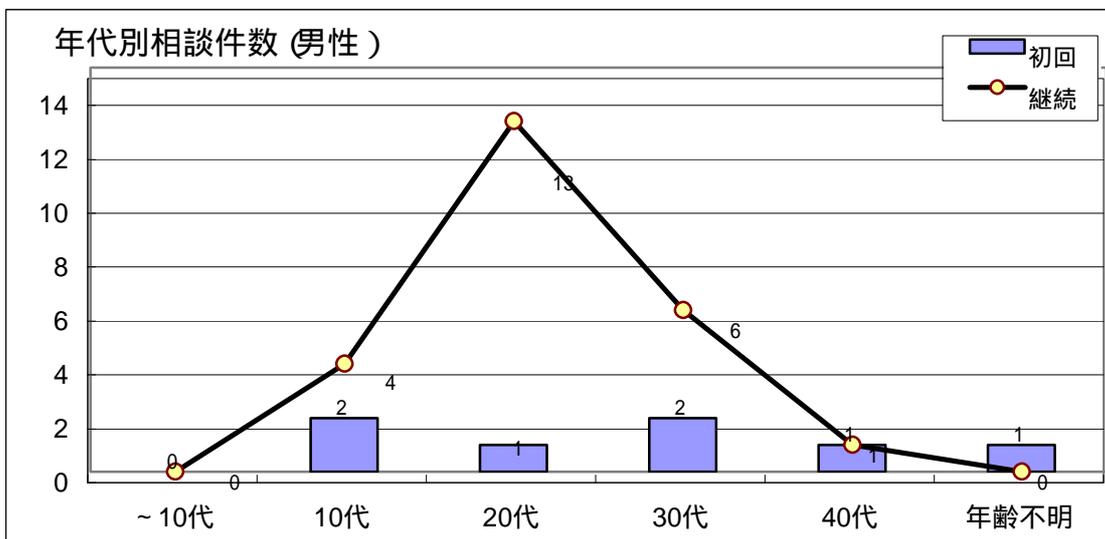
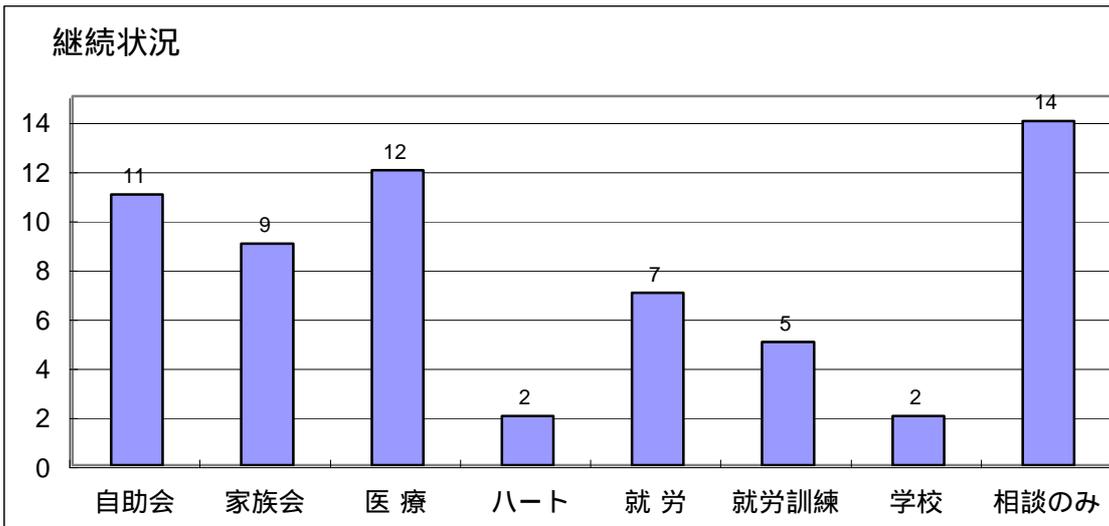
居住別 (31件中)

市内	22
市外	9
計	31

	~10代	10代	20代	30代	40代	年齢不明	計
男	0	4	10	4	1	0	19
女	0	1	9	2	0	0	12
性別不明	0	0	0	0	0	0	0
計	0	5	19	6	1	0	31



- (1). 相談実績



(2). 家族会実績

ほっこり会 (紀南地方ひきこもり家族の会)

(平成16年4月より自主運営)

実施日	内容	出席者				実数	参加家族数	対象家族数		
		父	母	その他関係者	窓口					
H19.4.10	午前	話し合い			0	1		14		
	午後	窓口不参加								
H19.5.8	午前	ハートソリーより話し合い	4	7	1	1	13		10	
	午後	話し合い	2	3	1	1	7		4	
H19.6.12	午前	話し合い	4	6	0	1	11		8	
	午後	話し合い	3	2	1	1	7		3	
H19.7.10	午前	話し合い	3	8	1	2	14		9	
	午後	窓口不参加								
H19.8.21	午前	窓口不参加							14	
	午後	窓口不参加								
H19.9.11	午前	話し合い	4	6	3	2	15		8	
	午後	話し合い	2	4	2	2	10		4	
H19.11.13	午前	話し合い	1	7	0	2	10		7	
H19.12.11	午前	話し合い	3	4	0	2	9		5	
H20.1.15	午前	話し合い	2	8	0	1	11		9	
H20.2.19	午前	話し合い	4	6	0	1	11		7	
H20.3.25	午前	話し合い	5	10	0	1	16		10	
	午後	話し合い	5	10	0	2	17		10	
		平均	3	6	1	1	11		7	14
イベント										
H19.10.14	午前	京都オレンジ(山田氏)/名古屋オレンジ(鈴木氏)/五五姫路(森下氏)/ひきこもり青年との交流会	窓口不参加						14	
	午後		4	5	6	1	16	6		

(3). 自助会実績 (月2回の集まり)

実施日	内 容	出席者	関係者	対象数	実施日	内 容	出席者	関係者	対象数
H19.4.6	高山寺 勸鳴峡へ花見 (徒歩で)	4	0	15	H19.10.5	ほんまもん体験について / 近況について	3	0	16
H19.4.20	SST (困っていること・訪問 販売の断り方)	4	0		H19.10.19	自分達は障害者なのか / ひきこもり・ニート自分 はどっちなのか	3	0	
H19.5.18	話し合い	2	0		H19.11.2	宗教関係の人が来た時 の断り方	2	0	
H19.6.1	ほんまもん体験について / 近況について	3	0		H19.11.16	カードを使って コミュニケーション	5	0	
H19.6.15	SST(人と話す時の目線 の位置について 雑談に 入っていけなくて困る とき) ハートツリーより(ほんま もん体験について)	5	1		H19.12.7	カードを使って コミュニケーション	4	0	
H19.7.6	話し合い	3	0		H19.12.21	クリスマス会	5	0	
H19.7.20	話し合い	3	0		H20.1.18	話し合い/ カードを使っ てコミュニケーション	2	0	
H19.8.3	ほんまもん体験について / 近況について	3	0		H20.2.15	話し合い	2	0	
H19.8.17	話し合い	3	0		H20.3.7	話し合い	2	0	
H19.9.7	話し合い	2	0		H20.3.21	話し合い	3	0	
H19.9.21	ほんまもん体験について / 近況について/ ハートツリーより (お月見について)	4	1						

○知音 (自主運営、参加要請の場合に参加)

実施日	内 容	関係者	参加者	実施日	内 容	関係者	参加者
H19.4.4	近況について	0	4	H19.10.3	携帯電話について/ テレビ番組について/ 落し物について	0	3
H19.4.11	最近のニュースについて	0	2				
H19.4.18	最近のニュースについて	0	2	H19.10.10	施設見学について/ 近況について/最近の ニュースについて (視察大学講師参加)	1	3
H19.4.25	話し合い	0	3				
H19.5.2	ほんまもん体験について	0	4	H19.10.17	イベントについて/祭りに ついて/絆の農業体験 について	0	3
H19.5.9	ハートソリーより(ほんま もん体験について)	1	3				
H19.5.16	ほんまもん体験について/ 最近のニュースについ て	0	3	H19.10.24	窓口不参加		
H19.5.23	話し合い	0	5	H19.10.31	窓口不参加		
H19.5.30	ほんまもん体験について/ 最近のニュースについ て	0	3	H19.11.7	近況について/ 自助 知音について	0	2
H19.6.13	ほんまもん体験について/ 近況について/ 最近のニュースについて	0	3	H19.11.14	自助会の時に使うカード の内容について	0	3
				H19.11.21	話し合い	0	2
H19.6.20	近況について/ 最近のニュースについて	0	2	H19.12.5	モーターショー (大阪)に ついて/近況について/ イベントについて	0	2
H19.6.27	近況について/イベント・ 調理講習会について/ ニュースについて	0	2	H19.12.26	近況について/ ニュースについて/ 梅の剪定作業体験 について	0	3
H19.7.4	料理講習会について/ 最近のニュースについて	0	4	H20.1.9	年末 年始の過ごし方 について	0	2
H19.7.11	最近のニュースについて/ イベントについて	0	2				
H19.7.18	職安・履歴書の書き方 について/居場所について	0	3	H20.1.16	仕事の仕方について/ 仕事をしてきた頃のこと について/精神的ゆとり について	0	4
H19.7.25	ジョブカフェについて/イ ベントについて	0	4	H20.1.23	窓口不参加		
				H20.1.30	話し合い	0	2
H19.8.1	ハローワーク・ジョブカ フェ 面接・履歴書の書き 方について	0	3	H20.2.6	話し合い	0	2
				H20.2.13	話し合い	0	1
H19.8.8	近況について/ イベントについて	0	2	H20.2.20	話し合い	0	1
				H20.3.5	最近のニュース・テレビ 番組について	0	3
H19.8.22	窓口不参加			H20.3.12	話し合い	0	1
H19.8.22	窓口不参加			H20.3.19	話し合い	0	1
H19.8.29	お盆の行事について/ 近況について	0	3	H20.3.26	窓口不参加		
H19.9.5	最近のニュースについて	0	3				
H19.9.12	お盆の行事について/ 近況について/ 携帯について	0	3				
H19.9.19	ニュースについて/ テレビ番組について/ 近況について	0	3				
H19.9.26	最近のニュースについて	0	3				

自助会イベント ほんまもん体験

日程・場所	内 容	参加者
<p>6月6日(水曜日) 新宮市熊野川町 『共育学舎』 小麦の収穫 昼食づくり</p>	<p>『共育学舎』に到着後、畑で農作業をしました。菜の花を刈りと乾燥させているものを集め、踏む作業をしました。踏む作業をしてくれたのは、自助メンバー(男性)と支援者等でしたが、暑い中、かなり大変な作業でした。その後、共育学舎にもどり、自家栽培の野菜で作られた料理(調味料以外の材料で自家栽培でないのは豆腐と卵のみでした)をいただきました。昼食後、コーヒーを頂きながら、共育学舎の三枝さん夫妻にお話していただきました。</p> <p>三枝さんのお話より(共育学舎・熊野川町西敷屋について) 共育学舎は、平成3年に休校、平成17年に廃校になったもと小学校です。以前は400人も児童が通学していたという木造の校舎が地域に開かれた人が集う学舎として生まれ変わったのは、平成18年です。学舎がある西敷屋という字には働き盛りの世代が少なくなり、田畑がチラホラ放置状態になっています。私たちが今回体験した畑の近くは、80代の夫婦が2人で作っているということです。現在、この地域の小学生は0人、中学生1人、高校生1人という超高齢化がすすんでいます。</p> <p>熊野川の三重県よりの町、西屋敷は、トンネルを抜けた山間にあり、なんとも言えずのどかで心を癒してくれるものがありました。</p> <p>《感想より(抜粋)》 自然は、温かみがある。木舎の学校は、現在、少なくなっているけれど、この木の温かみは、こころを和ませてくれる。『自給自足の生活をされていると聞いて、今どきめずらしく思ったが、世の中にはいろんな人がいると思った。農作業は自分達にはいいのでは?』お昼に食べた料理はとてもおいしかったです。今回の体験を通して、沢山のことを学べた気がします。『農薬を使わない土から作られた野菜は甘くて、食べれない野菜が、食べられた。』三枝さん夫妻の話が良かった。』</p>	<div data-bbox="1114 479 1455 730" data-label="Image"> </div> <p>自助メンバー 5名 ハートツリーメンバー 1名 検討委員 1名 支援者・関係者 5名</p> <p>(NPO法人 絆企画)</p>
<p>6月22日(金曜日) 中辺路町 『陶芸体験』</p>	<p>陶芸体験をしました。</p> <p>各自、皿、コップ、お茶碗、入れ物など、思い思いの作品を作りました。葉っぱを利用して、葉っぱの形のお皿を作ったり、葉脈を模様としてつけたりした人もいました。雨の音を聞きながら、各自集中して、作品の製作をしました。</p> <p>体験後、古道ヶ丘で、オールドブル形式の昼食会をしました。生憎の雨のため、予定していた古道ヶ丘散策は出来ず残念でした。昼食後、1つの輪になって、自分が作った作品の紹介等を含めた、お話をしました。</p> <p>《感想より(抜粋)》 みんなで何かを作るより、筏下りの様な体を使って体験したりするのが好きで、今日、参加するのを迷ったが、参加できて良かった。『陶芸は、どんなものを作ることが、なかなか決まらなかったの、困りました。でも、楽しかったです。昼食会の後、散歩が出来たら良かったのと思いました。』なごれるのが、こわかったけど、陶芸は人のこころを優しくしてくれた、自分の個性が発見できると思った。ハートのメンバーとか、支援に関わっている人達と、もっと交流がふかまるといかなって思う。』</p>	<div data-bbox="1114 1402 1455 1659" data-label="Image"> </div> <p>自助メンバー 4名 ハートツリーメンバー 3名 支援者・関係者 6名</p> <p>(NPO法人ハートツリー企画)</p>
<p>7月11日(水曜日) 北山村 『筏下り』</p>	<p>雨天中止</p>	

日程・場所	内 容	参加者
<p>7月28日(土曜日) 高野町 『七ころを癒す 念珠づくり』</p>	<p>高野山で念珠づくりをしました。 高野山の歴史や弘法大師、生命の始まりのお話などをしていただきました。その後、思いを込めながら松や高野薪の珠を磨き、紐に通していきました。各自の干支、仏様、名前の入ったお守りもつけました。それぞれの干支の仏様や真言も教えていただきました。一人一人に、言葉もかけてくださいました。 『感想より(抜粋)』 感謝や色々な場が、人の心を動かし、確かな生き方を感じられるから、これは仏が生から死のおとろえを教えてくれている事。きっと生き方には様々な事があるから、私達は、地球の一部であるのだから。『あ』から始まる意味は、すべての感謝、エネルギーを与えてくれるから、又、たくさん事を経験していきたいと思う。仏教の話、高野山の話は聞いたことがあったから、すぐに理解できた。』念珠は作ったことが無かったので、普通にビーズみたいにするだけだと思っていただけ、いのりとかもしながら出来ていくんだなと思いました。車で2時間はさすがに少し疲れた。散歩もしたかったです。』自分の念珠が出来上がった時、とても感動した。』</p>	 <p>自助メンバー 5名 ハートツリーメンバー 3名 検討委員 1名 支援者・関係者 4名</p> <p>(NPO法人ハートツリー企画)</p>
<p>8月21日(火曜日) 串本町古座 『カヌー体験』</p>	<p>古座駅に到着後、ライフジャケット等を借り古座川へ。河原で昼食を取り、インストラクターさんより説明を受けました。 その後、少し練習をした後、川を下って行きました。水量が少なかったようで、少し流れのきつい所で、座礁して動けなくなったり、水をかぶったり、思う方向に行けなかったりしましたが、約4km、川を下りながらだんだん漕ぐのも上手になりました。オールをこぐのも大変でつかれましたが、自然の中でカヌー体験を楽しむことができました。 『感想より(抜粋)』 カヌーを漕ぐのが楽しかった。もう一度行きたいです。』座礁して水をかぶった。始めはぜんぜん自分の行きたいほうに行かなかってインストラクターに迷惑かけたと思う。でも、体験して楽しかったです。』</p>	 <p>自助メンバー 2名 ハートツリーメンバー 2名 支援者 関係者 7名</p> <p>(NPO法人絆企画)</p>
<p>9月15日(土曜日) 日高町 『地引き網と バーベキュー体験』</p>	<p>日高町志賀(柏)の浜に到着後、説明をしていただき、2班に分かれて、ろくろを回してロープを引きました。その後、手でロープや網を曳きました。ロープや網を曳くのは、力が入り大変な作業でした。 地曳き網終了後、網にかかった魚を調理していただき、バーベキューと、魚を出しにしたお味噌汁も頂きました。生憎、雨が降ったり、風で砂がまっていたりしたため、計画していたスイカ割りはありませんでした。 『感想より(抜粋)』 網の中で魚がびちびち飛びはねるのを見たとき感動した。とれた魚を味付けなしで食べたけど、とてもおいしかった。今回は移動時間が少なかったし、内容もそれほどハードじゃなかったからあまり疲れなかった。楽しかったです。地引き網をみんなで引っぱっている時、想像していたよりかなり重かったのでおどろいた。』地引き網を引くのが思っていたより疲れた。でも体験してないことが出来たので楽しかった。バーベキューは風がふいて食べにくかった。スイカわりができなかったのが残念です。』</p>	 <p>自助メンバー 5名 ハートツリーメンバー 2名 検討委員 1名 支援者 関係者 8名</p> <p>(NPO法人ハートツリー企画)</p>

- (3) . 自助会イベント ほんまもん体験

日程・場所	内 容	参加者
<p>10月12日(金曜日) 和歌山市 風船ポンのランプ シェードづくり』</p>	<p>和歌山市加太で、風船と和紙を使ってランプシェードを作りました。体験まで少し時間があつたので、近くの淡島神社にも行きました。風船を膨らまし、その上にちぎった白い和紙を張っていきました。その上に、色のついた和紙や紙を張って模様をつけていきました。出来たものを家に持って帰り1日乾かした後、風船を割り完成です。 感想より(抜粋)『ランプシェードづくりは、けっこうむずかしかったです。絵柄とか考えてなかったのできょうになってしまったのでもう少し考えたらよかったですかなと思いました。』散歩が楽しかった。海がとてもきれいだった、また行きたい。』</p>	 <p>自助メンバー 3名 ハートツリーメンバー 2名 支援者・関係者 6名 (NPO法人ハートツリー企画)</p>
<p>10月22日(月曜日) 龍神村 とろふ作り』</p>	<p>龍神で豆腐づくり(るあん)とゆず工房(ゆず夢)で体験をしました。2箇所ともターンで龍神に来られた夫妻がされています。 豆腐作りは、昔ながらの地釜で薪の炎で煮ています。今回の体験では、ザル豆腐を作りました。休憩の間に出していただいた大豆コーヒー(ノンカフェイン)とおから入りのスイーツボテも美味しくいただきました。 ゆず工房では、地元のゆずを何とか利用しようといういろんな商品が作られています。今回は、アイスクリームがどのように作られているのか、アイスクリームの分類などはなしをしていただきました。アイスクリームの原液の味見もさせていただきました。昼食は、ゆず夢の喫茶店でいただきました。 感想より(抜粋)『みんな同じテーブルを囲んで食事できてよかった。』豆腐作りでるあんさんの豆腐は固める薬などいれていてでがりでできているのがすごいと思った。』</p>	 <p>自助メンバー 2名 ハートツリーメンバー 4名 支援者・関係者 6名 (NPO法人絆企画)</p>
<p>11月30日(金曜日) 日高川町 滝めぐり』</p>	<p>道の駅中津に到着後、現地の車に乗り換え町の指定文化財の楠を見に行きました。推定樹齢700年、樹高26.1メートルで根も枝も東西南北に張り見事な巨樹でした。 その後、露の滝、野槌の滝、雄滝 雌滝、鷲の川の滝などの滝めぐりをしました。野槌の滝の野槌は、「うちのこ」のことで、昔からここでそれを見たという謂れがあるそうです。鷲の川の滝は「紀伊半島自然百選」、紀の国の名水」にも選ばれているそうです。紅葉も見ごろで、滝の水量は少し少なかったのですが、きれいな空気と水に触れマイナスイオンを浴びることができました。 その後、きのくに中津荘に移動し昼食をいただき、館内の仕事の説明等をしていただきました。 感想より(抜粋)『鷲の川がきれいでした。紅葉もちょうど良かったです。滝壺の青がきれいでした。』滝の水量が少なかったので多い時に見てみたいと思ったりしました。もう少し歩きたかったです。</p>	 <p>自助メンバー 3名 ハートツリーメンバー 1名 支援者・関係者 5名 (NPO法人絆企画)</p>
<p>12月19日(水曜日) 串本町古座 ローケツ染め』</p>	<p>古座川町でろうけつ染めをしました。説明をしていただいた後、鉛筆で下絵を書き、その上を筆に口をつけて絵を書きました。その後、染料につけました。染料につけて、15分~20分、二回に分けて染料を均等に馴染ませるために手でまぜました。混ぜる作業が大変でした。 感想より(抜粋)『うまく仕上がるかどうか少し不安だったけど、自分が気に入ったデザインのTシャツができた時はとても嬉しかった。バスでの移動時間が長かったので少し疲れたけど、とてもいい体験が出来たと思います。』</p>	 <p>自助メンバー 3名 ハートツリーメンバー 1名 支援者・関係者 6名 (NPO法人ハートツリー企画)</p>

日程・場所	内 容	参加者
<p>2月27日(水曜日) 田辺市 陶芸体験』</p>	<p>NPO法人ハートツリーで、陶芸の先生に来ていただき陶芸体験をしました。 各自、ネズミや猫などの置物、器、思い思いのものを作りました。それぞれ素敵な作品が出来ました。後は、焼いて色付けをして仕上げていただきます。 『感想より(抜粋)』 陶芸体験でネズミの置物を作りました。みんなでわいわいしながら作るのは、とても楽しかったです。』</p>	 <p>自助メンバー 2名 ハートツリーメンバー 4名 支援者 関係者 7名</p> <p>(NPO法人ハートツリー企画)</p>

(4) . 社会体験活動

紀南障害者就業 生活支援センター

昨年度 ~

2名

青年長期社会体験活動

(和歌山県青少年課)

10月 ~ 2月	3名
----------	----

社会体験活動の感想

青年長期社会体験活動に参加した青年の感想

青年長期の実習を体験してみて、色々な体験が出来たと思います。
椎茸の栽培では、採るのが少し大変だったけど、自分も動こうと思ったら動けるんだな
と思いました。体を動かしたらとても気持ち良かったです。色々体験している人た
ちと出会って自分も頑張りたいと思いました。

社会体験活動に参加した青年の感想

僕は仕事を辞めてから、今の自分は何も出来ないとおきらめていた。
しかし、この体験の作業ならできるかもと思って参加してみた。朝起きるのはしんどかつ
たが、練習になった。一日が長く感じた。
また、もう一つの体験では、リサイクルに関する作業で、やっているうちに、こんな今の
自分でも役に立つことが出来るのではないかと気付き、自信につながるようになり、本当
によかった。ありがとうございました。

(5). 啓発活動・視察・実習・問い合わせ

○ひきこもりに関する啓発活動

日付	内容『テーマ』	人数
H.19.4.22	情報センター 55 (イシス)大阪 シンポジウム	85人
H.19.10.19	生活創造セミナー 「ひきこもり支援に携わって」 兵庫県	49人
H.19.10.30	第48回日本児童青年精神医学会	
H.19.11.10	日本精神衛生学会第23回大会 ミニシンポジウム	
H.19.11.22	社会的ひきこもり支援者総合研修 交流会 (京都府)	34人
H.19.12.7	第51回和歌山地域生活支援協議会 定例研修会	34人

○その他の啓発活動

日付	内容『テーマ』
H.19.8.27	南紀高等学校 教育対策研修会

○視察

愛知教育大学	2人
北海道大学	3人
広島県議会議員	1人
東京大学 大学院生	1人
大阪府立看護大学	1人
聖徳大学	1人

○問い合わせ

岡山県精神保健センター	明石不登校から考える会
愛知県瀬戸保健所	和歌山障害者地域生活支援協議会
ポラリス	熊野市 紀南圏域障害者総合支援センター
和歌山県経営者協会	東京都石神井総合福祉事務所
千葉県聖徳大学短期大学部	生活創造セミナー
南紀ひまわり会	新宮市議会議員
神戸新聞	国立精神・神経センター 精神保健研究所
佛教大学社会福祉学部	

○その他

「ユーズアドバイザー (仮称) の研修・養成プログラムの開発」事業にかかる教材原稿執筆 平成19年度 (第11回) 「千代田地域保健推進賞」の活動成果報告書

(6). 行政局講座 (中辺路)

1. 参加者 46名 (ひきこもり検討委員・事務局 9名含む)
2. 日時 平成20年1月26日(木) 1時30分～15時30分
3. 場所 中辺路行政局 中辺路保健センター
4. 内容
 - 1 開会あいさつ
 - 2 田辺市のひきこもり支援の実態
 - 3 ひきこもりと病気・障害について
 - 4 ひきこもりネットワークを支えている関係機関からの報告
5. 配布資料
 - 子どもたちの今
 - 田辺市ひきこもり支援の実態・「ひきこもりと病気・障害について」
 - ひきこもり相談窓口の紹介ビラ
 - ハートツリーの実践
 - ひきこもり青少年の居場所 NPO法人 ハートツリーの紹介ビラ
 - 講演会案内 「スローなまちづくり」と「スローな働き方 仕事起こし」
 - 田辺保健所での取組 (現状)
 - NPO法人 絆のご案内

6. 内容

【あいさつ】(中辺路行政局保健福祉課長)

【子どもたちの今】(栗栖川小学校養護教諭) パワーポイント使用
生活実態調査内容の健康生活面についての報告と取り組み経過を紹介。

【田辺市のひきこもり支援の実態】

【田辺市相談窓口の支援】

【田辺市相談窓口支援のながれ】 (相談窓口担当)

ひきこもり相談窓口とひきこもり検討委員会が支援体系の柱となって本人と家族を支援しています。

窓口では、電話・FAX・メール・来所による相談を受け付けていますが、電話による相談が多いです。

相談を受けると出来るだけ来所による相談へとつなげて、ひきこもりと思われる方には、継続支援を行っています。

相談を受けてから、2～3回の相談で様子を聞かせてもらいながら、精神疾患や中等度以上の精神遅滞などが背景にあると思われる場合には、適切な関係機関への紹介をしています。

初回相談は、家族、特に母親からの相談が多いです。家族は、月に1回の相談を継

続して行き、家族と本人とのコミュニケーションの回復を見ながら、本人に出会えそうな状況になると会いたいことを伝えてもらい本人に出会えるようにしていきます。本人は、2週間に1回のペースで相談します。

本人支援は、必要に応じ本人の了解が得られた場合には家庭訪問をしています。関係者と共に訪問することもあります。

本人の継続相談を行う中で自助会や知音などの集団の場を紹介し、本人の状況に応じ関係機関を紹介しします。

〔田辺市ひきこもり支援ネットワーク〕 (相談窓口担当)

ひきこもり検討委員会は、年2回、公的機関や民間機関や学識経験者など37名で構成されています。

委員の中から12名が代表して、小委員会として月1回会議を行い、事例検討や支援について話し合っています。

〔相談実績〕 (相談窓口担当)

平成19年4月から平成20年1月21日現在の相談件数、相談状況、相談分類、継続状況についての説明。

〔自助会実績〕 (相談窓口担当)

自助会は、月2回の集まりで、テーマを決めて話しをしたり、話したいがきっかけがないと話し難いということでカードを作って各質問に答えるようなものやSST(社会生活技能訓練)を取り入れたりしています。

知音では、週1回集まって、近況や最近のニュースなどの話しをしています。

昨年度から、和歌山県観光交流課の体験型観光活用支援事業を利用したほんまもん体験に参加しています。今年度は、NPO法人ハートツリー・NPO法人絆の企画で、カヌー体験、地引き網体験、何か作品を作るといった体験など9回実施されました。

和歌山県青少年課の青年長期社会体験活動を利用して、本年度は、ハートツリーのコーディネートで3名参加しています。

自助会に参加した青年たちは、昨年度から2年間で、一人暮らし、アルバイト、就労訓練、免許取得等の社会的行動の変化がありました。メンバーの動きに刺激を受け、動き出したというところもあります。

〔今後の課題〕 (ひきこもり相談窓口) (検討委員)

人との関係づくり(コミュニケーション)というのが課題です。

ネットワークがスムーズに機能するように網の目をきちんとすることも課題です。

NPO法人ハートツリー、NPO法人絆などひきこもり青年の支援をしてくれる人、場は広がってきています。

ひきこもり青年を受け入れてくれる人、場所は他にも田辺にはあると思います。さらに就労へのきめ細かい支援ということも必要ではないかと思っています。

〔取組みの経過〕 (検討委員)

田辺市内の不登校の会のグループが何とかならないだろうかと模索していましたが、田辺は遅れていてうまくいっていませんでした。

平成12年の12月議会に、不登校・ひきこもりについての質問が出て、13年の3月からこの窓口が始まり、今に至っています。

ひきこもり・ニートは増えています。

ドキュメンタリー番組で、ある仕事現場に働きに来ている方は、フリーター、派遣社員が多くなっているという話しをしていました。勝ち組、負け組みという言葉もあります。青少年全体の問題として、ひきこもりも今の社会を映しているのではないかと思います。

子どもさんやお孫さんがそういう状況にある方もいるかもしれませんが、ないかもしれませんが自分達の問題として捉えてもらえたらと思います。

26年前、田辺市に来て、ふたば作業所を立ち上げるときに一緒にしていた方が、ボランティアで中辺路から空き缶やダンボールを持って来てくれていたことを思い出します。

気がついたものから問題に関わってもらえたらと思います。

【ひきこもりと病気 障害について】 < 検討委員 (精神科医 宮本 聡 氏) >

【ひきこもり支援の見極め】

相談においては、病気や障害のためにひきこもっているのではないかという見極めが大切になってきます。

統合失調症 (以前は精神分裂病と言われていた) やうつ病などは、精神疾患で脳の病気です。社会的ショックだけでなるものではありません。本来の治療をしないといけないので、見落とさないようにしないといけません。田辺近辺では、心の医療センターが精神科医療の中心です。

中等度以上の精神遅滞 (知的障害) は、何らかの原因で知的発達が遅れています。学校教育では、特別支援学級 (以前の特殊学級) の対象となります。また、福祉の枠組で、デイサービス・ショートステイ・働くトレーニングなど一定の福祉サービスが揃っています。

- 、 の場合は、本人が希望すれば、社会参加できる制度があります。
- 、 以外の背景によるものが、ひきこもり支援の対象になります。

軽度の発達障害は、特別支援教育の対象になっても、福祉サービスの対象にならない場合があります。パーソナリティーの問題というのは、人格的に偏りがある状態です。

色々な心理的課題を抱えてはいるが、背景要因が良くわからないものも含まれます。

【社会的ひきこもりの定義】

6ヶ月以上、社会参加せず、精神障害を第一の原因としない」というのを、精神科医、斎藤環氏が定義としています。厚労省も同じようなことを言っています。

ただし「社会参加」には、就労や就学に狭く限らず親密な仲間関係や一定の家族関係が復活していれば良いと言われていました。

出たいけど出られない場合は、支援の対象になりますが、すべてが支援の対象になるかは分かりません。出たいと思っていたが、働くことの意味が分からないといわれる方もいます。

働くことがゴールかもしれないし、地域での活動が出来る、部屋から出なかったのが家族との会話が復活したというのでも良いのかもしれません。

【社会的ひきこもりの特徴】

ニートのような人や教育も受けないでいる風変わりな人というのとは、昔もいたのではないかと思います。目立ってきたのが1970年代後半からなのだと思います。

不登校がみんなひきこもりになるかというところではないが、関係はあるのではないかと思います。2~3割くらいは、不登校を経験しているのではないかとされています。

ひきこもっているのだから分からない部分が多いのですが、全国で数十万から百万人くらいと推定されています。

比較的男性に多いとされています。

不登校でもどこの家庭でも起こりうると言われていましたが、同じようにひきこもりもそうです。

長期化することもあります。2~3年自室でひきこもっていると神経症状や家庭内暴力などが起こることもあります。

ひきこもりは治療することはできませんが、出た症状に対して対症療法は可能です。

ひきこもりのきっかけは多様ですが、長期化には共通点があるかもしれません。

ひきこもった本人は18、20歳になってもひきこもり状態が続くとあせって不安になってきます。

そこへ父母が叱咤激励をすると本人も分かっている分、不安や焦りが強くなり、自分のことは分かってくれないという状況になります。そこで心理的にしんどい状況になって悪循環になることが多いです。

1年ひきこもっているのと10年ひきこもっているのでは、10年の方が変化を引き起こしにくいです。ただ、長くなったからといってそれが絶望的なことかというところではないです。長くひきこもっていた方が出てこられるようになった事例もあります。

【よくみられる精神症状】

不登校は症状ではなく状態像ですが、ケアはできます。長期化させないことが必要かと思えます。予防措置があるかといわれると、明確な答えはありません。

ただ、不登校からひきこもりに移行することが多いと言われていたので、地域の方、小・中学校の先生など周囲が注意深く見守っていくということが大切なのではないかと思えます。

対人恐怖・被害関係念慮・強迫症状・不眠などは、安定剤や抗うつ剤、睡眠剤などの薬を出すことも出来て治療の対象になります。

家庭内暴力は、対処方法など保健所に相談することが出来ます。長くひきこもっている結果、近所の誰かが何かを言っているというような被害妄想的になったりすることもあります。そういった神経症状は、医療の対象になります。

学校教育、生涯学習、保健福祉などのところで、早期に気付いて早く対処することも必要かと思えます。相談を早期にすることで、家を出れるようになったり大きな変化に

繋がることもあります。家族ごとひきこもっているような状況もあります。そういうような状況の人がいれば、相談に行くことを勧めてもらえたらとも思います。本人が出てこず、家族だけの相談で本人が出てこられるようになったケースもあります。

【ひきこもりネットワークを支えている関係機関からの報告】

[NPO法人 ハートツリーより] < 検討委員 (NPO法人ハートツリー 支援者) >

、ひきこもり青少年の「居場所」として

家庭以外で安心して過ごせる「居場所」作りということを大事にしています。過ごし方は個人の自由で、開所時間内は、「いつ来てもいいし、いつ帰ってもいいし、何をしてもいいし、何もなくてもいいし」ことになっています。安心・自己決定の場 (否定されることのない環境)、出会いの場 (人・モノ・世界) ということを提供するようにしています。

、レク活動や自主製品作り

何もなくても良いですが、月1回のミーティングで来月の予定を決定しています。

メンバーの自治でということですが、今は支援者も入って話し合いをしています。レク活動では、カラオケやボーリング、美術館鑑賞や散歩など楽しい体験の中で自己肯定感を高めるようにしています。

また、自主製品のクッキー、パウンドケーキを自分達で作って販売することで、「社会の中の存在」の確認を出来るようにしています。

和歌山県観光交流課の体験型観光プログラム (ほんまもん体験) の活用で、昨年度はドリフィンスイミングなど、今年度は、地引き網体験などさまざまな体験を行っています。

、各個人の要求に応じた支援

それぞれが持つ異なった課題をどう支援するかということがあります。まずは、ひきこもり状態から脱却したい方への「居場所」の提供、家庭訪問などの支援をしています。

進学、進路については、ハートに通いながら通学し大学に進学した青年もいます。

就労については、関係機関の協力のもと、販売実習や農業体験、県の制度の青年長期社会体験活動の活用などを利用しています。

支援者としては、あくまでも個人の「気持ち」に寄り添った支援が必要なのではないかと思っています。また、自己決定できる環境の整備をすることも大切だと思います。

その人の人生を左右してしまうような支援もダメなのではないかとも思います。

【田辺保健所での取り組みの紹介】

保健所では、広義のメンタルヘルスケアということで、医師 (精神科医) による「こころの健康相談」月4回 (訪問可) と保健師・精神保健福祉相談員による、「相談 訪問」を行っています。

年間の実件数は2~3事例で、継続して相談や訪問を続けています。

[NPO法人 絆 案内の紹介]

NPO法人絆では、休耕田で野菜づくり、しいたけの栽培、各種教室の開催など色々な活動をしています。窓口からも、参加させてもらっています。

【質問】

Q ハートツリーの紹介ビラに、訪問1回5千円とありますが、医師も一緒に訪問してくれるのですか。

A (検討委員)

- ・ ハートツリーの支援者が訪問することになります。必要な場合には、医師に相談ということになるかと思えます。
- ・ 医療では、制度的に往診もあります。ただ、病院によっては医師の時間的な状況もあって往診が難しい場合もあるのでいつでもというわけには行かないと思えます。相談していただければと思えます。ひきこもりに対しての医療行為というのは難しいですが、何らかの神経症状があるということであれば診察することが出来ます。

ひきこもりに関わって、1件往診したこともあります。本人の状況の判断をしないといけない場合など往診することも出来ます。その場合は、保険診療で出来ます。

Q 田辺市内でも、障害、自閉症、ひきこもりなどになると離婚して嫁が連れて帰るといようなことをいわれる方もいます。みなさんが理解されているわけではないです。老人会に働きかけるなどして、理解してもらえるようにしていかないと、子どもを育てる若いお母さん方も大変だと思えます。

また、先生方には子どものこころの声を聞いて頂きたいと思えます。



(7) . ひきこもり支援啓発講演会

主催 : 田辺市ひきこもり検討委員会
田辺市
後援 : 田辺保健所
田辺市教育委員会

演題 : 「人間関係につまずく若者たち」 自立社会の落とし穴

講師 : 明星大学人文学部教授 高塚 雄介 氏

日時 : 平成 19 年 12 月 15 日 田辺地域職業訓練センター 3F 大教室
PM2 :00 ~ PM4 :00

参加者 : 107 人 (一般及び関係者)



【講演内容】

< 配布資料に添って >

[1] ひきこもりの実態

新潟における事件当時の厚生労働省の調査で3万人、岡山県の調査を全国に当てはめたものでは34万人、内閣府の調査では80万人、ニート対策では100万人など、数的根拠はあるようでない。現実には身近で増加している。様々な施策があるが違った視点「自立にこだわる落とし穴」について考えていきたい。

1年以上ひきこもると長期化することが多く、1年以内に何か打てる手が必要。

[2] ひきこもりの背景要因

障害や病気を除外することになっているが、実際には不眠、家庭内暴力などで精神科や心療内科に受診し、便宜上病名をもらっていることもある。

[3] 不登校からひきこもりになっていくケース

不登校から5年たっても社会に出て行けない者が25%存在するという報告がある。

[4] 障害・疾病

統合失調症 統合失調症の中でも「破瓜型」といわれるひきこもりと判別しにくいタイプは、妄想などの特徴的な症状は少なく、なんとなくいつの頃から部活や友人から離れ教室の片隅でぼつんとしていて、空笑している。人の視界から遠ざかる。体育館の片隅で頭を抱えてうずくまる。学校ではこのような症状を病気の始まりとは考えにくく、ひきこもり群に紛れ込んでいく。

- ・ 知的障害 : いじめ、仕事があまく行かないことがきっかけでひきこもる。
発達障害 : 文部科学省では6.9%。抱える課題は人間関係であることが多い。



- ・ 人格障害 1980 年にアメリカで定義された。自己愛型や境界型に多く、好き嫌いが激しく周りから浮き上がり、結果としてひきこもる。
このようなさまざまな疾病や障害が原因になってひきこもっている人は確実に存在し、経験的には社会的ひきこもりと呼ばれている人の 1/4 は何らかのこのような疾病や障害を抱えている。

[5] 社会的価値観などの変化によりもたらされるひきこもり

- (1) 世間体・恥意識の刷り込みによりもたらされたケースは少なくなり、自己臭症・自己視線恐怖といった欧米型の文化背景に基づく神経症が増加してきている。総じて、自己へのこだわりが強く悩みはなかなか表に出てこない。
- (2) アパシー・シンドローム(無気力症候群)は、大学生や高校生に多発する現象として 1980 年代に注目されたが、90 年後半からは学歴一辺倒社会から変化し減少。元には競争原理主義があり、人と競い合う中で自分が勝っていると思っていたのに現実にはそうならなかったため、無気力になりひきこもる。
- (3) 企業の人事担当者が求める人材は「効率よく物事を処理できる」「周囲の人間関係をうまく構築できる」「言語的コミュニケーション能力が高い」。発達障害者にはなかなか就職先が無く、今後もこのままだと永遠に就職できない。元々日本人は納得してから動き、やり出したらとことんやる。そういう人がいなければ粗雑な製品を出すことになってしまう。

[6] 心理的ひきこもり

子どもが自立していくためには 2つの関門がある。自分を統御していく自律必要である。自立するには、主体性を確立し、その上で自己決定をする。自己決定したことに自己責任を求められる。

1つは皮膚感覚的関門でたとえて言うとオムツはずし(排泄の自律)である。長期戦になり親には忍耐力が必要である。

2つ目の問題点は過保護と過干渉で、このような偏った育て方をすると自律(セルフコントロール)できなくなる。

このような育てられ方をした子どもたちは、思春期を過ぎて自立を求められると、逆に自己決定や自己責任が怖くなり自己決定場面を回避しやすくなる。「自分を大事にしろ」「自分で考えろ」と育てられているため、他人の意見を聞かない。「自分で決めたからとやかく言われたくない」など屈折した心理状態となる。

[8] 社会的ひきこもりと心理的ひきこもりの違い

ある若者自立塾では利用者の 1/3 が発達障害だった。心理的ひきこもりは必ずしも自宅に閉じこもるわけではない。気に入ったところへは出て行く(コンビニ、アキバ)。心理的ひきこもりを生まないためには何が必要か。



[9] 心理機能から垣間見る「ひきこもり」の様態 ひきこもる若者の心的世界

東京都民 15～34 歳 340 万人中 3,000 人を無作為抽出し、実態調査を実施。完全ひきこもりが 0.7%、同じような意識傾向（親和性）4.9%を合わせると 5.5%になる。ここから推定される完全ひきこもりは東京都で 2万 5,000 人、いつひきこもりになってもおかしくない人を入れると約 20 万人、全国で 100 万人（調査に協力してくれる人に偏りがある可能性もあるが）にのぼると推定される。

合わせて、相談機関で面接調査に協力してくれた結果から「自己へのこだわり」「自尊心の高さ」が伺え、そのプライドを傷つけられたくないという不安と、人間関係に関する警戒・不安から人と争う・対立するのを避けようとする矛盾した自己完結的な考えになり、認めてもらえないと苛立ち、周りから言われるとキレてしまう。

現実には、時にはぶつかり相手を納得させることが必要で気持ちと行動にずれがある。

[10] 心理規制から垣間見る「ひきこもり」の様相

人間は 3 つの狭間「人間」「空間」「時間」を持つと居心地がよい。

(ア) 甘え型ひきこもりは人間を支配しようとしてリストカットした写メールを親に送ったりひきこもって自分を気にかけてもらおうとする。規制せず、満たされない甘えをまず受け入れる。

(イ) 居場所確保型ひきこもりは、子どもの頃の二者関係がうまく育っていない。成長のためには喜びも悲しみも共有していくことが必要であるが、過保護で喜びのみを与えられたり過干渉で否定ばかりされるとやがて三者関係が持ちにくくなる。学校ではやりたいことができずやりたくないことをやらされる。

過保護」自分をコントロールできない やりたいことができない、やりたくないことをやらされる学校 不登校

過干渉」人と一緒に喜びを共有することが育っていない 人の揚げ足を取る、批判する

学校で浮く 不登校

居心地のいいところ = 自分の家、部屋

(ウ) 時間停止型ひきこもりは時間の捉え方が昔と違い、現代は人生 80 年あり、時間は自分で決めるものという考え方がある。

[12] 「ニート問題」と「ひきこもり」問題

今、焦点がぼけてしまっている。ニートとはイギリスでできた言葉でそこでいうところのニートとは日本社会には少ない。かつては命令を聞いて頭をぺこぺこ下げたくない、人との付き合いが苦手な働きたくない人がフリーターだったがバブル後就職先の無い人がフリーターとなり以前のフリーターはフリーターにもならない。

自立塾に 3 か月参加して 7 割が就職するというが、社会で対応していけるかということ



不可能に近い。6～12 ヶ月かけて人間関係を身につけ将来について考える。自立の前に社会化に力を入れるべき。「働け、働け」は若者を追い詰める。こころの枠組みの固さやゆがみで自立できない。今のままの社会では今後も永遠に無理だろう。今後は、その人なりにできること、個人のできる仕事の開発が必要ではないか。企業に合う人間を作るには無理な若者も多くいる。「ひきこもり」というとすぐ「不登校」と重ねてとらえる傾向が強いがこれも間違いである。全体からすると不登校からひきこもりになる例はむしろ少ない。多くは学校を出てからつまづいていることをきちんと認識すべきである。



人の心と向き合う仕事に携わる人々のための特別セミナー

主催 : 田辺市ひきこもり検討委員会

演題 : 『対人援助に携わる人々に求められるもの』- 学生相談やひきこもり支援の臨床から

講師 : 明星大学人文学部教授 高塚 雄介 氏

NPO 法人「ニュースタート事務局」代表 二神 能基 氏

日時 : 平成 19 年 12 月 16 日 田辺市民総合センター 2F 交流ホール

PM2 :00 ~ PM4 :00

参加者 : 46 人 (一般及び関係者)

【講演内容】

ニュースタートは 14 年目の活動で、親からの相談から始まり、試行錯誤の中から生まれた。ひきこもりの若者への支援として、まず家庭を訪ねてなんとか家の外に引き出すという活動(「レンタルお姉さん」)がある。そして引き出した後、「若衆宿」という集団生活の居場所を作っている。寮に入った後は、「仕事体験塾」を通して社会と関わることができる。

[1] レンタルお姉さんの活動

家庭訪問

引きこもる若者は、どこかで他人がノックしてくれるのを待っている気持ちが根底にある。コンスタントに訪ねることで、9割の対象者と会える。

道具に徹する

レンタルお姉さんの側に「助けよう」という気持ちがあると、助けられる側は良い気分はしない。そのため、レンタルお姉さんのプロとは、「道具に徹すること」である。次のステップにつなげ、きっかけづくりに徹する。蹴られようが踏まれようが、相手が動けるようになるようになるかどうかというのが援助の基本方針である。経験をつんでいくと、短い時間で相手を動かす方法論が体験的に分かってくる。

あまり専門性や役割意識を前に出しすぎると、相手にするとかったるい。レンタルお姉さんはカウンセリングの資格等、専門集団ではないからできることかもしれない。気軽に

訪問して、何かほかのものに目を向けられるような働きかけをしている。

レンタルお姉さんの月収は 10 万円(住み込み)で、ボランティア的な要素が強い。「何かの役に立ちたい」という気持ちで希望する方が多いが、人間的な温かさをむき出しにしてしまうと、「うっとうしい」と感じさせたり相手に壁を作らせてしまったり、その優しさにしがみつかせてしまう結果になることもある。

[2] 若衆宿 (若衆宿 共同生活寮)

共同生活ができる寮がある。利用者は 70 人で 8 箇所に分れて生活している。寮生自身も誰かに支えられているだけではなく、誰かを支えているということが自信につながる



っている。共同生活のルールはなく、滞在の目安は1年間である。2年間で出てもらっている。

この寮生活の目的は、人間関係について「下手でも生きてゆける」と分かることである。皆、人間関係を難しく考えすぎているが、人間関係を向上させなくても社会復帰はできる。この寮を成長して出て行くことはない。「人間として墮落すると生きていけない」ということを分かればよい。「いい加減」を知ってもらいたいと期待している。

[3] 仕事体験塾

外に向けて、仕事をすることに慣れてもらう。福祉・地域・飲食・情報・ITなどの様々な分野を体験できる。人との接し方を学び、繋がりをつくり、自分がしたい仕事を見つけることを目指す。

[4] ニュースタートの理念

「人間はみんなできそこない」

自分の正しさを主張して他人を批判することは許されない。そのため、ニュースタートではいじめはありえないので、若者たちにとっては安心できる場である。また、「他人に迷惑をかけてはいけない」という言葉は若者たちを動けなくして、ひきこもっていくしかなくなる。寮では、他人に迷惑をかけあうことが自然なことで、互助組織である。それが広い意味の温かい自立であり、社会化支援である。

自立を支える仕組み

7割くらいは家に帰らず一人暮らしを始める。しかし一時的に自立したに過ぎず、賃金も安く、続かない。自立を支える仕組みを作るためには、次の3つのポイントがある。この3本立てで支えると、長期的に自立を支えることができると考えられる。若者が人生を楽しくしていく仕組みづくりが必要である。

1) 働き

「食い扶ちだけは稼ぐ」という意識を持つ。仕事に生きがいや働き甲斐を求めると難しい。

2) 暮らし

若者自立塾を卒業後も、一人暮らしができるように行徳ニュースタート通りには、共同生活寮や仕事体験塾が整備されており、働きと暮らしが支えられている。また、色々なクラブ活動もある。生活の中に仲間がいる。

3) 役立ち

人生やアイデンティティーを支えるためには「人の役にたっている」という感覚が必要である。「自分探し」には、「役立ち」が有効である。

社会化支援

若者の社会的自立への取組みは、就労支援に向かっている。5年前の「障害者自立支援法」により、若者たちを自立に追い立て脅迫する結果になってしまった。自立を促すには、社会化を支援しなければならない。

しかし「自己肯定観」や「自己実現」という言葉に踊らされている現代でもあり、ひきこもっていく若者も、自分に対するこだわりや自尊心を捨てきれない。何年も合格し



- (7) . ひきこもり支援啓発講演会

ない司法浪人がひきこもっていく現象に、ひきこもる若者の心理を理解するヒントがある(アパシーシンドローム)。

日本の労働行動では、「自立＝働く」という意識がある。そこそこ稼いで、社会に参加しながら、人生を楽しく暮らして欲しい。人間的で幸せな暮らしができる喜びを感じて欲しい。

[5] 専門家にとって必要なもの

自分の限界がどこにあるか知ること

人はいくつかのハードルを乗り越えて成長するが、万能ではない。いくら頑張っても達成できないものもある。この自覚を育むことも大切である。

緊急性を見極める力(どこから手をつけるかを判断する能力)

<質疑応答>

色んな角度から質問があれば、と配布された紙に今感じている疑問点や質問を書いて提出した。

境界性人格障害について
高塚氏)

境界性人格障害とは、極めてあいまいで大雑把な概念である。アメリカ文化の中で生まれたため、日本でどのくらい通用するのかも疑問である。

境界性人格障害の人の特徴として、衝動性が高いことがあげられる。好き嫌いだけで動く幼少期のような。成長の過程の中で長い時間をかけて、好き嫌いだけではない基準で物事を捉えるようになる。境界性人格障害と言われる者はその体験ができていない。

対人援助で相手の気持ちを汲み取れない
高塚氏)

カウンセリングで大切なことは、しっかり聞き、否定しないことである。カウンセリングには柔軟性が必要であり、分からないことは質問してもよい。

ひきこもりの若者の社会化について
高塚氏)

性格を変えるには、今まで生きてきたのと同じ年月がかかる。親は期待感もあり焦っているが、ある程度の期間がかかる。

自立支援のためには、今の社会に適応させることが必要である。3か月クールで評価していく。そしてその間にどれくらいの変化があったのかを評価する。また本人がこだわっている部分を受け止めて、その変化をおこすために何が必要かを見極めることが大切である。



不登校について

高塚氏)

不登校から継続してひきこもり状態となる若者も多い。登校刺激を与えてはいけない」という考え方があるが、「そろそろ学校へ行こうかな」という子どもの気持ちを封じてしまうことにもなりかねない。そうすると子どもたちは出口が見えなくなってしまう。不登校の子どもたちへの対応をパターン化してしまったことが問題であり、個別性を大切にその子のためのプログラムを立てることで、ひきこもりに追い込まれる若者たちも減るのではないか。

発達障害について

高塚氏)

専門家の中でも発達障害を見極められることは少ない。脳の機能障害と言われていたが仮説に過ぎない。見極めのできる人材が求められている。

雑居福祉村について

二神氏・高塚氏)

ひきこもる若者には物欲がないため、現代の市場経済社会に放り込むのは無理である。そこでそのような若者の居場所として世界に88箇所の雑居福祉村を作ること为目标としている。田辺市にもどうか。ひきこもりの若者への支援として、個別のカウンセリングに終わるのではなく、次のステップにつなげられないかという二神氏の思いもあった。

お金を稼ぐためでもなく、彼らのペースで仕事をしたり、地域に協力したりする。農業をしながら、お互い役に立ち合い支えあう社会をつくる。このようにして社会に参加する仕組みを作っていくことが求められる。行政や国が何かをしてくれると期待はできない。親御さんたちと共に仕組みを作っていく。

今後、雑居福祉村で農業と教育と福祉を連携させた取組みができないかと考えている(例えば、都会の子どもたちの自然体験の場として生かせないか)。

田辺市ひきこもり検討委員会 (平成 19年度) 議題

第1回 (H19 .4 .28) 出席者 31名	第2回 (H19 .10 .27) 出席者 21名
<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市のひきこもり支援について ・平成19年度事業計画について ・その他 親の会「ほっこり会」の紹介 居場所「ハートツリー」の紹介 NPO法人「絆」の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度事業上半期事業報告 ・平成19年度下半期事業計画 ・就労支援について ・その他 居場所「ハートツリー」の活動報告 NPO法人「絆」のパンフレット紹介

小委員会 (平成 19年度) 議題

第1回 (H19 .5 .17) 出席者 11名	第6回 (H19 .11 .15) 出席者 8名
<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度事業について 自助会育成・各イベントの開催 講演・交流会<高塚氏・二神氏(予定)> 学会発表(事例及び自助会育成) ・昨年度からの課題について スクールカウンセラーとの連携について 体験活動の展開について 就労支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・日本児童青年精神医学会での事例発表 (研究)について
第2回 (H19 .6 .21) 出席者 7名	第7回 (H19 .12 .20) 出席者 6名
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・就労支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・京都府の取り組みについて
第3回 (H19 .7 .19) 出席者 8名	第8回 (H20 .1 .17) 出席者 8名
<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・就労支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・行政局講座について ・まとめの冊子について
第4回 (H19 .8 .23) 出席者 8名	第9回 (H20 .2 .21) 出席者 2名
<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・就労支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政局講座について ・来年度の計画について ・まとめの冊子について
第5回 (H19 .9 .20) 出席者 7名	第10回 (H20 .3 .13) 出席者 8名
<ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントについて ・講演会について ・就労支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の計画について ・まとめの冊子について ・自助会イベントについて ・小委員会の開催方法について

(9). 田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想



一人の保健師として ~ 小さな叫び声に耳を傾けて ~ ひきこもり相談窓口担当 目良 宣子

ひきこもり相談窓口開設以来 7年間担当者としてこの支援にほぼ専任で従事してきた。この7年を振り返り、保健師の一人として感じていることを自身の反省を含めて書き連ねてみたいと思う。田辺市の支援の特徴としてのひきこもり支援と地域ネットワークについては、既に地域保健推進活動として報告したものの一部を本冊子に掲載しており、これは担当者や検討委員等支援に直接或いは間接的にかかわってきた人たちによる検討の結果を、これまでの成果と今後の課題として明確にしている。

さて私は、7年前までは、市町村行政の保健師として、赤ちゃんからお年寄りまでの地域保健(福祉)に携わってきた。業務内容は、国が定めた法律に基づく補助金が伴う事業であった。

市役所に入庁した翌年、老人保健法が施行され、その法律は25年後の今年度で終了する。その事業の成果はいかなものであったのか? 健(検)診率の向上、“自分の健康は自分で守る”というスローガンの下、生活習慣の改善、“一人ひとりが健康観を高めより健康的な人生を送る”ことへのアプローチであった。来年度からは、新たな法律の下、健診後の支援の方法が細分化される。少子高齢社会となり日本の経済情勢も厳しい中、医療費の増大を是正する方向に動いている。“元気で長生き”が理想ではあるが、人の行動変容・意識変革ほど難しいものはない。年齢を重ねれば重ねるほどそうである。この日本のすばらしい長寿社会を支えていくのは、これから生まれてくる子ども及び現在の青少年たち若者である。その若者たちが悲鳴をあげている。

若い人たちが、社会人として自立するまでに、或いは親となる日までに、健康的な生活習慣を身に付けておくことが最善である。これは、就職や結婚が必然と言っているのではない。多様な生き方があっていいと思う。健康的な生活習慣をどうやって身につけるのか。家庭? 学校? 地域の役割? いろんな考え方があると思うが、大人も子どもも、物は豊富にあふれているのに、“ゆとり”がない。心の中も時間も空間も他者との付き合いも、目先の生活或いは仕事をこなすことで精一杯。格差社会の中で生き残るために必死である。

現在の日本社会では、自由は与えられるが、“働かないで生きていく”ことへの選択肢はほとんどなく、最低限の生活への保障もままならない。20年近く母子保健法による業務に携わり“子どもが健やかに育っていくためのまちづくり”を目指して取り組んできたわけだが、その成果もいかなものであったのか? 小学校入学によって、地域保健は学校保健にゆだねられ、その後しばらく親となる或いは30歳以上にならなければ、仕事としてかわることはほぼ皆無だった。人が成長するときの最も不安定な時期である思春期を、学校と家庭の中に任せてしまい、限局された文化や価値観や体制の中で、息苦しさを感じ、夢や希望を持たないまま成人した子どもたち。ひきこもりといった状態も、社会の循環がうまく流れていない結果が引き起こしている現象のようにも感じられる。

私はひきこもり支援に携わったこの7年間で、実にさまざまな事例に出会い、家族・学校・職場・地域のあり様、生き様、価値観を見てきた。そして多くのことを学ばせてもらった。

面接相談という一室の空間の中で、私がいつも心がけてきたことは、“目に前に座っていらっしやる方の理解を深めよう”ということだった。理解とその積み重ねが、信頼関係を徐々に築いていくように思えた。その相談場面が、数回ではなく定期的に繰り返される中で、頭の中で考えていることが整理されたり、気持ちを言語化したりできるようになっていく。1対1関係が更に仲間づくりへと広がっていく支援だった。

思い返せば、保健師はこれまでの業務の中で、健康相談や育児相談という事業名で相談といわれるものを繰り返してきた。主に集団事業の中で行ってきたことが多いこともあって、単発的であったり、継続しても数回、虐待などが疑われればチームを組んで継続的に関わることも何回か経験してきたが、支援を必要とされている方にどこまで寄り添った相談活動ができてきたのかという疑問である。

またひきこもり支援は、ひきこもり状態を生み出す背景が病気や障害等を含めて色々あるだけに、適切な支援や制度の活用など既存のサービスにつないでいくため、その背景を見極めていくことも重要な役割であった。関係を築きながら見極め、更に関係(者)をつないでいくという役割も担った。そうやって支援を必要とするものも直接的支援に携わるものも、一人で抱え込まず、できるだけ多くの関係者と協働し支え合うシステムを作ってきた。皆誰も一人では何もできない。ヘルプを出せる環境が大事である。

ひきこもり支援の困難さは、長期化と複雑さからもたらされることによる、支援者側の粘り強さと根気、あせらずあわてずあきらめず、ゆっくりしたかわりの中から、小さな変化を見つけ出し、思考或いは行動の変化を少しずつ支えていくところにある。その前提として、他者への信頼と自身への肯定の積み上げが必要になる。個への関わりから仲間づくりとして集団につながっていくときも尚更である。本人がよければ孤立もOKだが、多くの青年は人との関わりを求めている。一人から数人へと関係を広げていくことは、気遣いも多くなり疲れる。個性豊かな他者をどれだけ受け入れて、自分との違いを認めながら折り合いをつけていくのかという作業になる。時には意見のぶつかり合いも出てくる中で、支援者の関わりはどの辺で関わるのか？或いは関わらないのか？さし加減やタイミングが重要である。人が集まれば何かが起こる。起こることが問題なのではなく、その中でどのように対処するのか。それは自分でなくてもよい。誰かが反応することによって、またその場の状況が変わってくるからである。そういった何が起こるかわからない、マニュアル化できないのが、対人関係であって、対人サービスに関わる人たちに求められる柔軟性なのかもしれない。

ひきこもり支援には、行政の保健師として携わっていくには限界を感じる。相談・背景の見極め・ネットワーク・仲間づくりまでは、従来の地域保健活動としての業務の中で積み上げてきた集大成である。その後ひきこもりを経験した青年が、外に出て他者との関係を持ち始めた時、社会の中で自分らしく生きていくために必要な選択肢を、地域の中で作り出していくくみをどう生み出すのか。現在の日本社会が築いてきた負の因子の中で生きている私たち大人は、どんな未来を子どもたちに残していくのか、一人ひとりの立場で真剣に考えていかなければならない時期が来ていると思う。

最後に、支援半ばにして、一旦直接的支援から離れることをお詫びするとともに、これまで以上に、関係者の皆様の熱いお力添えで、官民が協働したひきこもり支援のみならず、互助の精神が満ち溢れた田辺市のまちづくりとして、益々発展することを願って、多くの方々との出会いと学びに深く感謝したい。



ひきこもり相談窓口を担当して

ひきこもり相談窓口担当 小川 香織

ひきこもり相談窓口を担当して2年がたち、今年度は、個別相談も担当させてもらう中でこの支援について改めて考えさせられた1年でした。

自助会や知音に参加している青年たちは、「話したいけれど、話が出来ない。」「自分がしゃべってよいのだろうか。」「こんなことをしゃべってよいのだろうか。」「沈黙になったとき、みんなどう思っているのだろうか。」「周りのことを気遣い、喋れないなど色んな思いをもっています。時には、黙っているのも良い。ただ、人の話に耳を傾けているだけでも良い。色んな状況があっても良いのだと思います。しかし、話をしたいと思っていると、黙っているのは辛いことです。気を抜いて、気楽に居られる場所、気楽に一緒にいられるひと、気楽に話できるひとが見つければと思います。そういう場所・ひとがいれば、何か始めたとしても、そこでうまくいかないことがあっても、また前を向いて進めるのではないかと思います。

ほんまもん体験のときにしても、自助会にしても、青年長期社会体験などに参加したときでもコミュニケーションを上手にとるといことが課題になっています。動き出して、就労について考える時にも、そこが不安要因になります。

自助会のときに田中夏子氏の講演会のビデオを見ながら、「スピードと効率」という言葉から、「スピード」というのはそんなに大切なのか、「ゆっくり」ではだめなのかという話ができました。その話の中で、色んなことに追われているとついつい余裕がなくなり思いやりの心がもてなくなることがあるのではないかと、自分にも余裕があれば他の人のしんどさというのも分かってあげられたのではないかとというような話も出ました。

いろんなことを頭の中で考えている分、他人のことを思いやる優しい気持ちをたくさん持っている分余計に動けなくなっている状況があるのではと思います。

今年度は、青年長期社会体験を含め、自助会メンバーが就労体験に参加しました。その支援には、青年長期社会体験のコーディネートをいただいたハートツリーの支援者、ボランティアで関わってくださる方々がいました。メンバーさんもそれぞれ少しずつ動き出していくと、どこかでなにか良いきっかけを見つけることが出来るかもしれないと思います。

相談に来られる方のお話をじっくり聞かせてもらいながら、少しでも気持ちが楽になれる方法を一緒に考えていければと思っています。

何か課題が見え、ではどうしたら良いか、他の方からヒントをいただきながら私自身、少しだけ前に進めたのではないかと思います。窓口に来られている方も、ゆっくりでもよい、しばらく止まって考えることがあってもよい、無理をせず、あせらず、少しずつでも前に進むことが出来ればと思います。

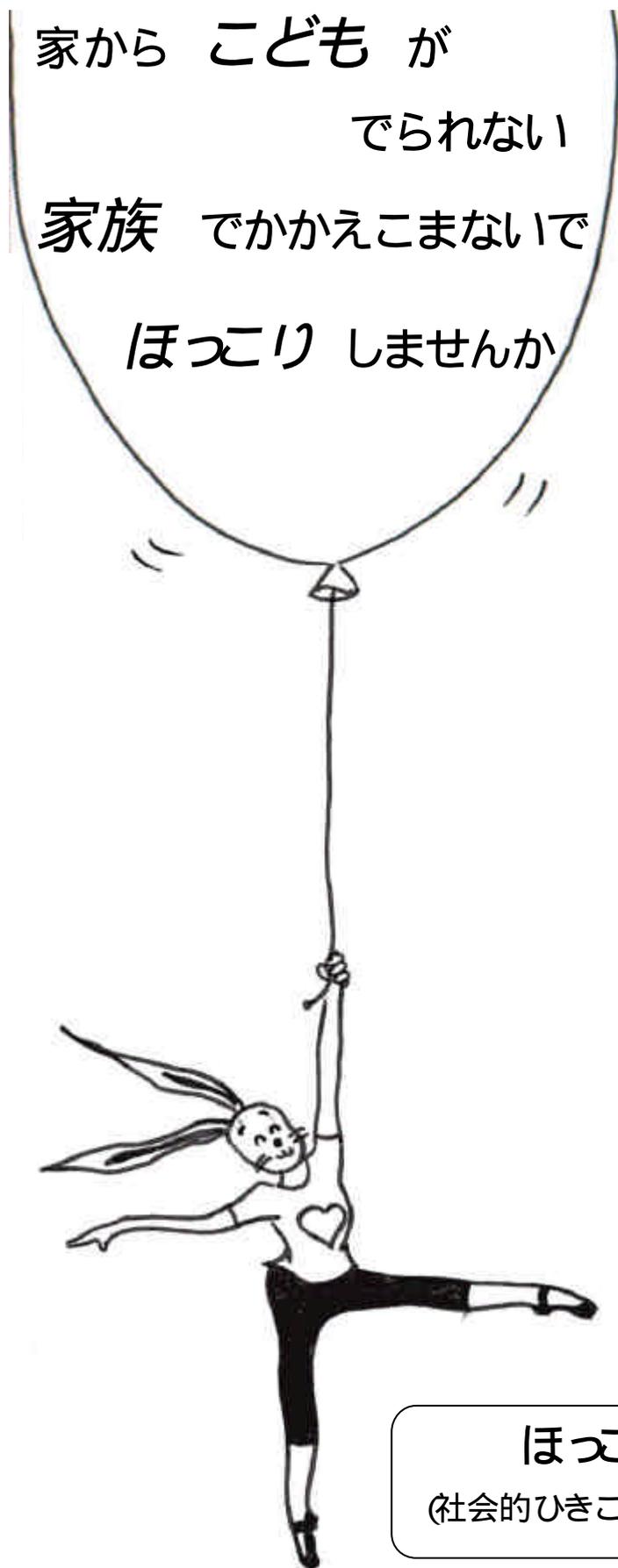
私自身、いろんな方に支えていただきながらこの年度が終わったように思います。私に出来ることは少ないかもしれませんが、これからも自分に出来ることを出来る限りしていければと思っています。



.参考資料

1.社会的ひきこもり家族の会 ほっこり会紹介ビラ	・・・・・・・・・・	55
2.ハートツリー 紹介ビラ	・・・・・・・・・・	56
3.田辺市ひきこもり検討委員会		
【設置要綱】	・・・・・・・・・・	57
【平成 19 年度 委員名簿】	・・・・・・・・・・	59





社会的ひきこもり青年の居場所

NPO 法人ハートツリー

Heart Tree House...

木々が地に根を生やし
枝の1本1本が広がり
豊かに実ることで
大きくなっていく...

そんな風に心も育っていければ...

利用対象

ひきこもり状態にある青少年

対象年齢

15歳～30歳代までの男女

見学、体験利用も可能です

開所時間

月曜日～金曜日 13:00～17:00



since 2002

〒646-0032

和歌山県田辺市下屋敷町98番地

Te& Fax 0739(25)8308

E-mail: heart-h@mb.aikis.or.jp

URL: <http://www.aikis.or.jp/hearth/>

田辺市ひきこもり検討委員会 【設置要綱】

【設置】

第1条 思春期・青年期にある者（以下「青少年」という）にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会（以下「委員会」という）を設置する。

【検討事項】

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

【組織】

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

2 委員は次に掲げる関係機関の職員のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社会福祉法人やおき福祉会
- (2) 社会福祉法人ふたば福祉会
- (3) 民間支援団体
- (4) 紀南こころの医療センター
- (5) 南紀福祉センター
- (6) 田辺保健所
- (7) 紀南児童相談所
- (8) 田辺市教育研究所
- (9) 主任児童委員
- (10) 田辺市母子保健推進委員会
- (11) 知識経験者
- (12) 紀南六校代表
- (13) 南部高校 龍神分校
- (14) ひきこもり家族会代表
- (15) 当事者代表
- (16) 保健福祉部長
- (17) 子育て推進課
- (18) やすらぎ対策課
- (19) 商工振興課

(20) 学校教育課 (幼稚園・小・中学校関係)

(21) 生涯学習課

(22) 児童育成課

(23) 健康増進課

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

【委員会】

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

【会議】

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。

3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

【事務局】

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

【その他】

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

田辺市ひきこもり検討委員会 【平成19年度 委員名簿】

	選出区分	備考(選出団体、役職名)	氏名
委員長	1 学識経験者		布袋 太三
副委員長	2 社会福祉法人やおき福祉会	社会福祉法人やおき福祉会	寺沢 啓三
副委員長	3 社会福祉法人ふたば福祉会	社会福祉法人ふたば福祉会	米川 徳昭
小委員	4 社会福祉法人やおき福祉会	紀南障害者就業・生活センター	横矢 弥生
小委員	5 社会福祉法人ふたば福祉会	社会福祉法人ふたば福祉会	野長瀬 祐樹
小委員	6 民間支援団体	ハートソリー	南 芳樹
小委員	7 南紀福祉センター	医師	宮本 聡
小委員	8 田辺保健所	精神保健福祉相談員	栗田 直嗣
小委員	9 学校教育課	田辺市	木下 和臣
小委員	10 生涯学習課	田辺市	山下 寿人
小委員	11 学識経験者		今見 邦夫
小委員	12 健康増進課	田辺市 ひきこもり相談窓口担当	目良 宣子
	13 民間支援団体	絆	倉谷 修治
	14 紀南こころの医療センター	医師	早田 聡宏
	15 紀南こころの医療センター	精神保健福祉相談員	和田 光弘
	16 紀南児童相談所		日下 訓志
	17 田辺市教育研究所	教育相談担当	木下 郁子
	18 主任児童委員		佐武 未子
	19 田辺市母子保健推進員		酒井 知津代
	20 学識経験者		松下 直樹
	21 学識経験者	龍神行政局 民生児童委員協議会	五味 貢
	22 学識経験者	龍神行政局	山本 尚司
	23 学識経験者	大塔行政局	尾崎 史予水
	24 学識経験者	大塔行政局 民生児童委員	深見 修司
	25 学識経験者	中辺路行政局 民生児童委員	飯田 公子
	26 学識経験者	中辺路行政局	横矢 豊子
	27 学識経験者	本宮行政局	九鬼 聖城
	28 学識経験者	本宮行政局	芝 栄子
	29 紀南六高校代表	田辺高等学校	山崎 雅史
	30 南部高等学校龍神分校	南部高校龍神分校	田城 麻紀
	31 家族会	ほっこり会	愛瀬 典子
	32 当事者	ひきこもり自助会 知音	垣内 春人
	33 子育て推進課	田辺市	片家 稔子
	34 やすらぎ対策課	田辺市	岩本 あけみ
	35 商工振興課	田辺市	敷地 弘規
	36 児童育成課	田辺市	中田 郁生
	37 保健福祉部長	田辺市	田中 敦